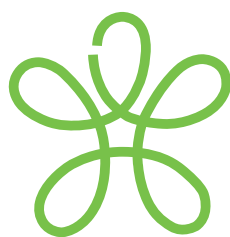


文芸学部履修要項

2026

令和8年度



近畿大学

この履修要項は、令和8年度文芸学部入学生に
適用されます。

卒業まで大切に取り扱いってください。

目 次

文芸学部長のあいさつ	1
近畿大学教育方針	2
文芸学部教育方針	3
学科・専攻別教育方針	5
I 学修要項	
1. 学科構成	15
2. 学期及び授業時間	15
3. 授業科目の構成	15
4. 授業形態と卒業単位数について	15
5. 単位制	16
6. 学年制	16
7. 卒業証書・学位記	16
8. 授業科目の選択及び履修登録	16
9. キャップ制	17
10. 履修取り下げ	18
11. 試験について	18
12. 受験時の注意	18
13. 文芸学部追試験規程	19
14. 文芸学部再試験規程	19
15. 文芸学部定期試験等における不正行為に関する規程	20
16. レポート・論文(卒業論文を含む)・作品(卒業制作・卒業作品を含む)等における 剽窃・捏造行為について	21
17. 成績評価	21
18. GPA (Grade Point Average) 制度	22
19. 休講と補講	23
20. 欠席届	24
21. 文芸学部学業成績優秀特待生	24
22. 教職課程と司書課程	26
23. 学芸員資格(博物館学課程)	27
24. 日本語教員養成課程	29
25. 奨学金制度	30
26. 中央図書館案内	30
II 学科・専攻別 卒業・進級・履修要件と授業科目表	
共通教養科目・第一外国語(英語)・第二外国語(各学科共通)	33
専門科目	
文学科日本文学専攻	48
文学科英語英米文学専攻	54
芸術学科舞台芸術専攻	58
芸術学科造形芸術専攻	62
文化・歴史学科	66
文化デザイン学科	71
III 校舎・講義室等の配置図	
	76

——学部長挨拶

文芸学部長 鈴木 拓也

みなさん、ようこそ文芸学部へ！文芸学部には、文学、歴史、文化、思想、芸術、コミュニケーションの知識や技能を身につけるための多くの「学び」の場があります。そこには教室で聴講や議論などを行う講義だけでなく、文学や芸術など自己表現を行う創作の場や、学外に飛び出して現地で新しい発見と出会う場、課外活動やボランティア活動などがあり、自分がこれから学んでいきたいことを実現できる可能性に満ちています。みなさんは、この多種多様な「学び」の場でさまざまな経験を積みながら将来の目標を定め、その目標に向かって自主的に計画を立てて実行していかなければなりません。その「学び」の指針となるのが、この『近畿大学文芸学部履修要項（以下、「履修要項」）』なのです。

「履修要項」は、大学・学部・学科・専攻の「教育方針（ポリシー）」、学修要項、学科・専攻別の卒業・進級・履修要件とカリキュラムツリーからなっています。そのほか、「単位制」、「履修登録」、「定期試験」、「欠席届」、「GPA」など耳慣れないことについて書かれていますが、これらはすべて大学で学んでいくための重要な情報ですので、充分理解しておくようにしてください。

また、「履修要項」の内容は入学年次ごとに違います。みなさんの大学での「学び」のための要件は、今手に取ったこの「履修要項」の内容が卒業まで適用されます。ですので、「履修要項」は卒業まで大切に保管して、年次ごとに参照するようにしてください。

なお、単位修得には、みなさんが所属する学科・専攻の専門科目、共通教養科目、第一外国語科目（英語）、第二外国語科目、教員免許などの資格を取得する科目、それぞれから必要な科目を修得することが必要です。もちろん、ただ単位を取ればよい、というわけでもありません。科目には、必修、選択必修、（自由）選択、の区別があり、間違って履修すると卒業が危うくなることもあり得ます。自らの学修計画をしっかりと考えて履修科目を選択してください。その際に必要な事項がすべて記載されているのが、この「履修要項」です。

科目で学ぶ講義の内容や授業計画、成績評価の方法などは、「シラバス」に書かれています。文芸学部で自分が学びたいこと、チャレンジしたいこと、そして将来の自分に必要なものを修得するため、「履修要項」という指針に基づいて履修計画をたて、「シラバス」を参照にしながら講義を自由に選択し、その「学び」を通じて自分の道を切り開いていってください。みなさんの4年間にわたる充実した大学生活を期待しております。

近畿大学教育方針

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

本学は、「建学の精神」と「教育の目的」を実現するために、「全学共通科目」と「専門教育科目」を2本柱として、各学部学科の特色を生かしたカリキュラムを提供します。また、ボランティア、インターンシップ、各種資格取得講座などのプログラムを展開し、全教職員が、学生の学問的、人間的成長とキャリア形成を支援します。さらに、生涯学習社会実現のために、学生と社会人と教員が共に学び合う機会を提供します。これらにより、学生はディプロマ・ポリシーにある資質及び能力を以下のように身につけます。

1. 全学共通科目および学部基礎科目では、文系・理系の枠を超え、入学者の基礎学力の確認と向上を図るプログラムを提供し、各学部における専門分野の学問へ導くとともに、学問する習慣を身につけます。
2. 専門教育に携わっている教員が教養教育（全学共通科目）に参加して、実学（専門教育）と教養の連動ないし融合を視野に入れた授業を提供します。これにより、教養と専門教育の意味を幅広い視野から理解し、学ぶ意義と意欲を体得します。
3. 「専門教育科目」においては、社会のニーズに対応できる教養に裏打ちされた専門性を高める工夫を進め、社会に貢献できる知識と技能、探求心を身につけます。また、必要に応じて他学部との単位互換制度等を活用し、複眼的な専門性を育成します。
4. さまざまな国際分野で活躍できる人材を養成するため、グローバル教育の充実を図り、国際社会が共有する目標と文化的多様性の価値を理解し、国際感覚を身につけます。さらに、海外の教育機関等との提携による国際スタンダード教育への参加を進めます。
5. 産学連携を推進し、生きた実学教育の充実を図ります。社会人の学びの場（リカレント教育）を充実し、生涯学習社会の実現に貢献します。学生の資格取得のために、学部横断的な取り組みを展開します。ボランティア、インターンシップ、留学制度等を充実し、学生が地域社会、国際社会において意味のある学びを体験できるよう努めます。これにより、社会貢献の意義と使命感を体得し、常に自らを高める自己教育力を身につけます。
6. これらの達成度および学修の成果は、別に定める「評価の方針」によって評価を行います。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学は、「建学の精神」と「教育の目的」に基づいて、「深い教養と高い志をもち、社会を支える気概をもった学生を育成し、社会に送り出すことを最終教育目標」としています。厳格な成績評価を行い、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質を以下に示します。

1. 大学での種々の学びを通じて、「人に愛され、信頼され、尊敬される」人格へと自らを成長させ続ける自己教育力を培っていること。
2. 問いながら学ぶ「学問」習慣を身につけ、専門領域における知識・技能を修得し、それらに裏打ちされた探究心と社会貢献への使命感に目覚めていること。
3. 専門領域における課題の意味を、広い歴史観や深い人間観の中で位置づけようとする教養を、身につけていること。
4. 異質な価値や文化を理解し、自国の伝統や文化の意味を再発見する国際感覚を、身につけていること。

文芸学部教育方針

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

個人および社会の自由と幸福を追求するために、教養、判断力、趣味、共感能力を高め、さらに文化領域について深く学び、考え、実践することで、思考力、美的感性、創造力、批評精神を涵養します。

共通教養科目

（目的）

単なる知識の修得にとどまらず、震災・原子力発電所事故・パンデミックなど現代社会の危機をふまえて、既成の知的枠組みに対する批判的思考を備えた幅広い教養を培うため、「人間性・社会性科目群」、「地域性・国際性科目群」、「課題設定・問題解決科目群」、「スポーツ・表現活動科目群」から成るカリキュラムを編成しています。

1. 「地域性・国際性科目群」では、これらの科目を履修することにより、主として国際社会および日本社会の変化を幅広い観点から観察し、大学卒業後の自己の進路をイメージできる、責任ある社会人としての自律的個人を確立します。
2. 「人間性・社会性科目群」では、人文科学・社会科学・自然科学の知を横断的に学ぶことにより、教養・判断力・趣味・共感能力等を備えた豊かな人間性が養われます。
3. 「課題設定・問題解決科目群」および「スポーツ・表現活動科目群」では、学び、思考し、調査し、それらの事柄を整理し発表することを通じて、学問的・創造的成果を表現するコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力が涵養されます。

外国語科目

（目的）

グローバル化した現代社会で生きる個人に必須の資質として、異文化を受容し身近な文化を発信するための基礎となる外国語の能力を涵養します。

1. 外国語の読み書き聞き話す能力を養うこと。ひいては専門分野における多言語による成果の吸収および発信する能力に活かす。
2. 外国語の学修を通して、当該言語の言語形態や文化に触れる。
3. 生涯教育を視野に入れ、外国語の学修を通して幅広い教養を身につける。

専門科目

（目的）

言語・文学・思想・歴史・芸術等の知的実践的修得を通して、個々人の文化的素養を育むとともに、文化の継承と発展を担いうる優れた人格を涵養します。

1. 少人数による演習を実施し、学問的・創造的成果（卒業論文・卒業制作・卒業公演）において社会的に標準とみなされる以上のレベルに到達する。
2. 必修科目の履修を通じて、言語・文学・思想・歴史・芸術についての各自が得た深い知見や、言語・身体・作品等による文化的芸術的な表現を、現代社会や異文化に向けて積極的に発信する能力が涵養される。
3. 選択必修科目の履修を通じて、言語・文学・思想・歴史・芸術についての広く深い理解に到達する方法や技術を学び、自己および社会の文化観を更新する批評精神が涵養される。
4. 専門を越えた学びとその実践の機会として、自由選択科目を配置している。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学は、「建学の精神」、「教育の目的」に基づいて、「深い教養と志をもち、社会を支える気概を持った学生を育成し、社会に送り出すことを最終教育目標」とすることをディプロマ・ポリシーとしており、文芸学部ではこれを旨として、文学、歴史、文化、思想、芸術、コミュニケーションの知識や技能を身につけ、社会に対し創造的な貢献のできる人を育成します。この育成方針に則り、厳格な成績評価によって所定の単位の修得が認められた学生に卒業を認

定し、学士（文学、文芸学）を授与します。卒業までに身につける資質・能力は以下のとおりです。

1. 所定の科目を誠実に履修し、勉学への積極的態度を表していること。
2. 知識・技能の修得と学問的・創造的成果（卒業論文・卒業制作・卒業公演）を通して、必要に応じて他者と協働して課題に取り組み、自ら新しい知識や情報を得て、自主的、継続的に学ぶことができていること。
3. 教養・判断力・趣味・共感能力等を備えた豊かな人間性をつねに琢磨していること。
4. 責任ある社会人としての自律的個人を確立していること。
5. グローバル化した現代社会で生きる個人として、他者を尊重し、共同体の中でコミュニケーションが図れること。

学科・専攻別教育方針

文学科

日本文学専攻

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

日本文学専攻では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質と能力を育み、専門的知識・技術・発想力を身につけるため、共通教養科目、外国語科目、専門科目を配置しています。

共通教養科目の履修を通じて、専門科目の基礎となる洞察力、問題発見能力を培います。また、初年次に近大ゼミを置き、大学生として必要な「読む力」「書く力」「話す力」を高め、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を涵養します。外国語科目の履修を通じて、グローバル社会で活躍するための基礎となる外国語能力を養います。

専門科目においては、日本文学専攻に「創作・評論コース」「言語・文学コース」の2コースを設けて、各コースの特色に沿った授業が配置され、「人文学の教養を高め、日本語による的確な表現技術を磨き、物事を絶えずその本質において問い直して、新たな知的価値を創出する能力」（ディプロマ・ポリシー）が涵養されます。また、教養科目の「人間に対する洞察」「問題発見」能力、および語学科目の「異文化理解」と連係し、2コースを交流・融合させた基礎的で総合的な教育と、各コースの独自性に鑑みた専門的な教育を段階的に構築した教育プログラムを開講しています。

1. 創作・評論コースと言語・文学コースの2コースでは、それぞれ文芸創作と批評、文学研究と言語研究が重点的に育成されます。創作・評論コースでは、読むことと書くことの練習を通して、現代の「知」の地平を表現し、あるいはプロデュース、編集、デザインする能力が育成されます。言語・文学コースでは、テキスト読解や調査、文献探索に基づいて言語をめぐる自身の思考を的確に文章化し、プレゼンテーションする能力が育成されます。
2. 1年次、2年次においては、主に2コースのコース共通科目において、古典から現代文学までの日本文学の歴史や概論、日本語学の概論のほか、批評理論、翻訳、映像、メディア、編集など言語芸術や言語学およびその表現方法について幅広く学び、2つのコースの積極的な交流・融合を通して、創造的実践と学術的研究の両面から、対象に多角的にアプローチする基礎的視点が養われます。

また、2年次、3年次、4年次においては、いわゆる基幹科目として各コース独自の専門的なプログラムが用意され、主体的で能動的な授業への参加を重視し、調べ、読み、考え、書き、発表する研究的、創造的な能力が養われます。この基幹科目を通して、ディプロマ・ポリシーに掲げた「言語構造・技法の分析」や「普遍的思考」の構築を学ぶことになります。

3. 3、4年次に配当される演習科目、4年次の卒業論文・卒業制作においては、少人数のゼミナール形式での実践的で双方向的な授業を通して、これまでに学んだ知識、理論、技能などを総合的に活用し、自身の集大成となる論文・作品制作に取り組めるよう、学生各自の文化的関心や志向に応じた指導、啓発が行われ、また学生同士の相互批評を通して、公共的コミュニケーションの能力と研究成果や創造成果をまとめる力が育成されます。
4. 学修成果の到達に関しては、日本文学専攻のカリキュラム・ポリシーに即した各シラバスの評価方法に則り、点数化します。評価方法は、授業への取り組み、授業での課題や提出物、口頭発表、試験やレポートなどが割合で配分され、それぞれの点数を合計してその科目の到達度とし、前期・後期の Semester 終了時に個人宛に通知します。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

日本文学専攻は、本学の「建学の精神」と「教育の目的」に基づき、人文学の教養を高め、日本語による的確な表現技術を磨き、物事を絶えずその本質において問い直して、新たな知的価値を創出する能力が涵養される専攻で、そのような人が育つ場であることを目指しています。この趣旨のもとに厳格な成績評価を行い、所定の単位の修得が認められた学生に対し卒業を認定し、学士（文学）の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質・能力は以下のとおりです。

1. 関心・意欲・態度

- 1) 知識や情報を能動的に活用し、自発的な人文学の学修を継続できること。

- 2) 人間に対する洞察と異文化の理解に基づいて、他者を尊重できること。
2. 思考・判断
- 1) 様々な資料・情報を自らの力で分析し、多面的で論理的な思考ができること。
- 2) 物事の本質的な次元にまで遡って自ら問題を発見し、批判的に考察できること。
3. 技能・表現
- 1) 日本語の高度で適切な運用によって公共的なコミュニケーションができること。
- 2) 言語テキストの構造・技法の分析や文献探索を通して言語表現を多角的に読解できること。
4. 知識・理解
- 1) 日本文学や日本語の専門知識を修得し、それを人間や言語に関する普遍的な思考に連係できること。
- 2) 文学や言語の研究を通して人間の多様な営みに関する知識と理解を深め、社会や文化の未来を柔軟に思考する横断的な知性と倫理を身につけていること。

英語英米文学専攻

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

英語英米文学専攻では、幅広く深い教養を涵養するため、共通教養科目を配置しています。共通教養科目の履修を通じて、専門科目の基礎となる洞察力、問題発見能力を培います。また、初年次に近大ゼミを置き、大学生として必要な「読む力」「書く力」「話す力」を高め、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を涵養します。

専門科目では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質と能力を育むために、以下のような特色あるカリキュラムを提供します。

1. 「Reading and Writing」「Academic Writing」「Basic Academic Writing」「Listening」「Speaking」「English Communication」「Presentation Skills」などの少人数、対話型の必修授業を履修することで、外国語としての英語を運用するための基本となる4技能（読む、書く、聞く、話す）が鍛え上げられます。また、近大ゼミなどの教養科目を履修することで、幅広く深い教養を涵養することができます。
2. 英語能力検定試験（TOEIC その他）で高い評価を得られるような、より実践的な英語能力の強化を目指すため、「Practical English」「TOEIC Advanced」などの科目を低学年から配置します。
3. 英語圏の文学、文化、言語に通じることができる「English Literary History」「American Literary History」「Culture and Literature」「Film and Literature」「Poetry Studies」「Children's Literature」「Anglo Fiction Studies」「American Fiction Studies」「English Linguistics」「Drama Studies」などの専門授業を提供するとともに、国際的体験を得るための留学制度により、国際的事象に対して幅広い視野を持ち、国際社会へ貢献できる力が涵養されます。
4. 「English Education」「Early Childhood English Education」といった専門授業を履修することで、言語習得および教育実践についての知見を深めることができ、英語科教員として優れた教育を行うための知識及び能力が培われます。
5. 「Seminar」「Reading Academic English」などの専門授業を履修することで、高度な専門知識が修得でき、それにより高い次元での国際的見識と語学運用能力を有する人材へと成長できます。また、これら授業で卒業論文執筆指導を受けることにより、説得力のある議論を行う能力を身につけることができます。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

英語英米文学専攻では、建学の精神に則り、「深い教養と志をもち、社会を支える気概を持った学生を育成し、社会に送り出すことを最終教育目標」とする近畿大学のディプロマ・ポリシーを旨として、厳格な成績評価によって所定の教育課程の修得が認められた学生に卒業を認定し、学士（文学）を授与します。卒業までに身につけるべき資質・能力は以下のとおりです。

1. 関心・意欲・態度

古来から日本の文芸の中心地であった大阪の地で、高度な専門教育を経て、学士号取得に至ることに誇りを持ち、

国際社会及び地域社会に自らの力を還元しようという志を抱いていること。

2. 思考・判断

国際的に困難な状況においても和を成すことができるような、他者との高いコミュニケーション能力を所持するに至っていること。またそのための幅広く、深い教養を在学中に得ていること。

3. 技能・表現

専門知識・技能の修得により、学士として総合的に高いレベルに到達していること。また、これらの知識と技能に裏打ちされた専門分野研究活動（卒業論文・卒業研究）において、説得力のある議論を構築する能力の修得が示されていること。

4. 知識・理解

所定の科目の内容を修得し、勉学への高い志が見られること。また、外国語としての英語の語学能力を高い次元まで伸ばし、社会で求められる幅広い運用能力を身につけていること。

芸術学科

舞台芸術専攻

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

舞台芸術専攻では、共通教養科目、外国語科目、専門科目、卒業制作・卒業論文を段階的に配置しています。共通教養科目の履修を通じて、専門科目の基礎となる洞察力、問題発見能力を培います。また、初年次に近大ゼミを置き、大学生として必要な「読む力」「書く力」「話す力」を高め、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を涵養します。外国語科目の履修を通じて、グローバル社会で活躍するための外国語能力を養います。専門科目では総合的で多様な舞台芸術を系統的に学んで行くために、学びの角度の指標として、〔演劇創作系〕、〔舞踊創作系〕、〔戯曲創作系〕、〔TOP（Theatre Organization Planning）系〕の4つの系を準備しています。

どの系の卒業研究を選択するかを考えつつ、学年ごとに選択した「系」の学びの中心となる核科目と、専攻の共通科目を横断的に組み合わせ、それぞれに独自カリキュラムを作成することにより、多角的に専門的な知識と経験が修得できるように構築されています。選択した「系」の核になる科目における共同創作作業や議論を通して、ディプロマ・ポリシーで掲げた「創造的で論理的な思考と判断」が身につきます。また、他学科、他専攻の選択科目も組み合わせることができます。また、国語の教員免許、図書館司書、学芸員資格取得のためのカリキュラムを設置しています。

4つの「系」の学びの内容は以下のとおりです。

〔演劇創作系〕

演劇創作の実践活動を通して、体験により知識修得を目指します。役を演じること、作品を演出すること、作品に必要な照明・音響・舞台美術を創ること、公演を制作することに必要な知識を、実習・演習形式の授業において修得し、演劇表現の創造を探求します。また、演劇を通しての教育活動や社会貢献に必要な知識を身につけるため、講義形式の授業を配置しています。

〔舞踊創作系〕

舞踊創作の実践活動を通して、体験により知識修得を目指します。踊ること、振付すること、作品に必要な照明・音響・舞台美術を創ること、公演を制作することに必要な知識を、実習・演習形式の授業において修得し、舞踊表現の創造を探求します。また、舞踊を通しての教育活動や社会貢献に必要な知識を身につけるため、講義形式の授業を配置しています。

〔戯曲創作系〕

戯曲という科白による「物語」を創ることを実践的に学びます。「物語」を作ることは新たなものの見方を社会に提示し、まだ見ぬ社会の構築を目指すことでもあります。1年次から戯曲創作の授業で創作実践を積み重ねると同時に、他の系の授業を横断的に学ぶことにより、多くの人々の共感を得、人々の生き方に影響を与え、より良い社会の構築を可能にするような新しい「物語」を創作する力が身につきます。

[TOP (Theatre Organization Planning) 系]

舞台芸術の理論、歴史、批評を学ぶと同時に、広く実際の舞台芸術作品や公演に触れ、さらに他の3つの系の授業、また、他学科、他専攻の授業を横断的に学ぶことで、舞台芸術を企画し実現させていくために必要な知識、社会に舞台芸術の種を蒔き、育み、広めていくために必要な考察力が身につきます。舞台芸術活動におけるプロデューサー、アーツマネージャー、フェスティバル・オルガナイザーとして、また、舞台芸術の研究者、批評家、芸術擁護活動（アドヴォカシー）に携わる者を目指すために必要な知識と能力が身につきます。

〈初年次科目〉

舞台芸術専攻学生の修得すべき基礎的知識や態度を学ぶ基幹科目として、すべての学生に履修を義務づけてある「必修科目」と、「基礎科目Ⅰ」「基礎科目Ⅱ」という二つの区分を持つ「指定必修科目Ⅰ」を設けています。「指定必修科目Ⅰ」は、網羅的に舞台芸術への理解を深める学修ができるよう、また卒業研究において4つの「系」のうちどれを選択するとしても有用で横断的な知識が得られるよう配置され、それぞれの中から指定された科目数を選択し履修することを義務づけています。また「選択必修科目」にて、学生のより広い興味への対応も満たすよう、より専門的な知識・経験の獲得ができるよう配慮しています。

〈二年次以降〉

二年次以降では、より具体的に卒業研究を念頭において、4つの「系」に基づいた履修を行います。それぞれの系における研究のために必要な科目を修得できるよう「指定必修科目Ⅱ」（二年次）、「指定必修科目Ⅲ」（三年次）を用意し、自らの興味に従って「系」に則った学修ができるように科目を整えています。また複数にまたがる「系」の学修も可能で、学修が容易になるように、例えば〔演劇創作系〕の実習授業公演は後期に、〔舞踊創作系〕の授業実習公演は前期にといったかたちで整理され、関心のある専門領域の構築、卒業研究に接続する学修を幅広く支援できるように準備しています。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

舞台芸術を専攻し、卒業するという事は、私たちを取り巻く様々な事象から、人間とは何か、生きるとはどういうことかについて深く知り、考えることのできる教養と能力を身につける、ということです。舞台芸術専攻では本学の「建学の精神」に則り、教育カリキュラムを運営し、本学の教育目的である「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人」を育成し、新たな表現、創造を生み出す原動力となるこれらの力が備わることを教育の目標として、厳格な成績評価によって教育カリキュラムを運営しています。

卒業研究（演劇作品、舞踊作品を公演の形で発表するもの、および戯曲創作、卒業論文を作成するもの）を含む必要な科目を履修し、所定の単位を修得した学生に卒業認定し、学士（文芸学）の学位を授与します。

卒業までに身につけるべき資質・能力は以下のとおりです。

1. 関心・意欲・態度

- 1) 舞台芸術のみならず、世界の多様な事象に興味、関心を持ち、それらについて知る術と意欲。
- 2) すべてのことに偏見を持たず、世界の事象の中に美を見出そうとし、また、他者と積極的に関わることにより、人間の行動の本質を理解しようと努める態度。
- 3) 多様な問題に直面した時、常識的な考え方にとらわれず、人間の感情や理性を根本に据えてものを見ようとする態度。

2. 思考・判断

- 1) 社会や人間に対し、創造を通じた学びの経験に根ざした広範な問題意識を持ち続けること。
- 2) 問題の解決のために、創造的で論理的な思考、判断ができるようになること。

3. 技能・表現

- 1) 舞台芸術に関する基本的技術を身につけていること。
- 2) 舞台芸術の表現力、および、それを社会的な場に広げる言語表現能力を身につけていること。

4. 知識・理解

- 1) 舞台芸術についての専門的な知識を有し、その作品や表現を理解して適切に批評し、また、その社会的役割について理解していること。
- 2) 舞台芸術探求を通して、人間の多様な営みに関する知識と理解を深め、社会や文化について柔軟に思考する力を身につけていること。

造形芸術専攻

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

造形芸術専攻では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質と能力を育み、専門的知識・技術・発想力を身につけるため、学生が造形芸術を通じて、教育者、造形作家、研究者等を目指すための能力を培うことができるよう、共通教養科目、外国語科目、専門科目、卒業制作研究を段階的に配置しています。

共通教養科目の履修を通じて、専門科目の基礎となる洞察力、問題発見能力を培います。また、初年次に近大ゼミを置き、大学で学ぶにあたって、その意義や姿勢について考えるとともに、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を涵養します。また、外国語科目の履修を通じて、グローバル社会で活躍するための基礎となる外国語能力を養います。

専門科目は、少人数ゼミナール制で「感じる・考える・創り出す」を繰り返すことにより、専門的知識・技術・表現力が身につけられるよう科目を配置しています。1年次は総合基礎実技として、造形表現全般の基礎を学び、2年次は平面・メディア表現領域、立体・メディア表現領域の2領域から、1領域を選択し、各領域の基礎を学びます。3年次以降は2年次に所属していた領域から1ゼミナールに絞り込み、専門的な知識・技術を深めます。それに加え、ゼミナールを超えたプロジェクト・ワークショップなどの取組を通してコミュニケーション能力や応用力を強化します。

<卒業制作研究>

最終学年の必修科目として、卒業制作研究を設けています。

「造形芸術を通じて、教育現場や社会に貢献できる人」、「専門的な力を持つ造形芸術作家やデザイナー及び研究者」、「ゼミナール、ワークショップ、イベント企画、産学連携アートプロジェクトを通してコミュニケーション能力及びマネジメント能力を有する人」、「グローバル（アート）教育、国際アート交流プロジェクトを通して国際交流に意欲を持つ人」を目標にし、それらに関連した表現研究を、卒業制作あるいは卒業研究として提出することで、達成度を評価します。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

造形芸術専攻は、本学の「建学の精神」に則り、教育カリキュラムを運営し、本学の教育目的である「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人」を育成します。

さらに、「専門的な力を持つ造形芸術作家やデザイナーを育成する」、「造形芸術を通じて、社会や教育現場に貢献できる人を育成する」、「ゼミナール、ワークショップ、イベント企画、産学連携アートプロジェクトを通してコミュニケーション能力及びマネジメント能力を身につけた人を育成する」、「グローバル（アート）教育、国際アート交流プロジェクトを通して国際交流に意欲を持つ人を育成する」、を教育の目標とし、厳格な成績評価により教育カリキュラムを運営しています。

これらの趣旨をもとに開講された科目を履修して、所定の単位を修得した学生に卒業認定し、学士（文芸学）の学位を授与します。

卒業までに身につけるべき資質・能力を以下に示します。

1. 関心・意欲・態度

- 1) 疑問を持った事柄を放置せずに解決に向かうことができること。
- 2) 既成概念にとらわれず常に新たな発想を持つことができること。

2. 思考・判断

- 1) 多角的視点で物事を観察し、批判的思考を働かせ、自ら主題を設定する能力を身につけること。
- 2) 「感じる・考える・創り出す」を積極的に繰り返し、自発的な発見・判断ができること。

3. 技能・表現

- 1) 専門分野の基本的な知識と技術を身につけること。
- 2) 自分の作品について、論理的に発表できるプレゼンテーション能力を身につけること。

4. 知識・理解

- 1) 社会における芸術の役割を具体的に説明できること。
- 2) 専門分野に関する歴史や成り立ちを理解できること。
- 3) 社会に貢献できるコミュニケーション能力を身につけること。

文化・歴史学科

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

文化・歴史学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質と能力を育むために、学生が幅広い知識と深い教養を身につけ、主体的かつ意欲的に学びに取り組めるように、共通教養科目・外国語科目・専門科目を配置しています。

共通教養科目の履修を通じて、専門科目の基礎となる洞察力、問題発見能力を培います。外国語科目の履修を通じて、グローバルな文化・歴史を総合的・俯瞰的に把握するための外国語能力を養います。

専門科目は、必修科目、選択必修科目、学科選択科目、自由選択科目からなります。必修科目は、教員との活発な交流を通して学びの実際と楽しさを体得する少人数教育の根幹です。文献の読解や現地調査を通じて基礎的な知識や方法論を学びます。また、口頭発表や卒業論文作成を通じて、独自の問題意識を持って課題を追究し、論理的かつ説得的に発信する能力を身につけます。

選択必修科目として、1年次には、各専門分野の基礎を学ぶために「選択必修科目Ⅰ」を、関心を広げるために「選択必修科目Ⅲ」を履修します。2年次以降には、研究に必要な技能を身につけるために「選択必修科目Ⅱ」を、より専門性を高めるために「選択必修科目Ⅳ」を履修します。「選択必修科目Ⅱ」「選択必修科目Ⅳ」は、後述する4つの〈系〉に分かれています。4つの〈系〉を横断した学びを通して、広い視野と深い専門的知識を修得しながら、最終的に各自の専門とすべき研究分野を絞り込んで卒業論文を作成することが、カリキュラムの軸となっています。

それに加えて、専門の幅を広げたい学生は、「学科選択科目」を、専門を超えた学びを实践したい学生は「自由選択科目」を履修することができます。

1. 〈日本史系科目〉

日本史系の科目群は、日本の古代から近現代に至る歴史と文化を学び、発見する楽しさを体験しながら、私たちの歴史と文化を未来に引き継ぐことを目指しています。歴史の中に自ら分け入り、独自の視点から読み解き、歴史を明らかにする方法を学びます。そのために、最新の研究成果に触れ、先人たちが残したさまざまな史料に親しむとともに、日本の思想や文化遺産への深い理解に導く科目群を設置しています。

2. 〈世界史系科目〉

世界史系の科目群は、地域を問わず、古代から現在までの人類の歩みを概観するとともに、世界の文化と歴史を、文献史学、考古学、口述記録、文化史など多角的な視点から学べるように設定しています。授業を通じて、古今東西の歴史と文化に対する幅広い知見を得るとともに、特定の地域・時代についての専門研究を深めることができます。

3. 〈現代文化・倫理系科目〉

現代文化・倫理系の科目群は、日本および世界で今現在起こっているさまざまな事象を広く視野におさめ、楽しんだり悩んだり怒ったりしながら、これから社会で生きていく上でのものの見方、考え方を深めていく科目群です。ジェンダー、メディア、倫理、思想といった言葉がキーワードになりますが、扱うテーマは時事問題や音楽やファッション、現代思想から政治・経済の問題まで、硬軟とりまぜ多彩な講義を用意しています。学びのポイ

ントは「異なった見方、考え方を身につける」です。

4. 〈文化資源学系科目〉

文化資源学系の科目群は、日本史系科目、世界史系科目、現代文化・倫理系科目の各群を横断的につなぐ科目群です。日本と世界における有形・無形の文化遺産の重要性を学び、それらを現在と将来に残し、生活や社会の中で活かす方法を模索することを目指します。さまざまな文化遺産を学んだうえで、身近な文化資源を調べて掘り起こし、その活用と発信の方法を考えます。この系では考古学、民俗学、地理学を中核にして、実習形式の授業に参加しながら、コミュニケーション能力を身につけ、主体的にフィールドに出て、自分で考え、行動することへと導く科目群を設置しています。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

文化・歴史学科は、本学の「建学の精神」、「教育の目的」に則り、学問的知識とともに論理的な思考力、健全な批判精神、自分で問題を発見し解決する力、他者の立場を理解し異なった意見に耳を傾ける謙虚な姿勢、自分の意見や着想を他人に伝え積極的に社会にかかわっていく発信力と行動力、以上を兼ね備えた人材を育成します。この方針に基づき、厳格な成績評価によって所定の単位の修得が認められた学生に卒業を認定し、学士（文学）の学位を授与します。卒業までに身につける資質・能力は以下のとおりです。

1. 関心・意欲・態度

- 1) カリキュラム・ポリシーに示された4つの系にまたがる幅広い知識と理解力を身につけるとともに、グローバルな文化・歴史を総合的・俯瞰的に把握する意欲を持つこと。
- 2) 現代の社会文化に対するアクチュアルで自発的な考察力を持つこと。

2. 思考・判断

- 1) 身の回りや社会に生起する諸問題に対する鋭敏な洞察力を鍛えること。
- 2) 卒業後の自分の進路や自らの社会的使命に対しても、つねに真摯かつ誠実であることを心がけること。

3. 技能・表現

- 1) 社会的な積極性を持ち、自主性を心がけることのできる人物、そして文化的な意味で個性あるコミュニケーション能力に長けた人物となること。
- 2) グローバル化した現代社会で生きる個人として、自らが積極的に関与する広範な人間関係の中で、文化事情についての自己表現を行う技術と能力を発揮できること。

4. 知識・理解

- 1) 4つの系にまたがった広い見識を持つと同時に、自分の専門領域とする文化事象について深い理解を会得し、実践的に応用できる能力を身につけること。
- 2) 協調性を重視すると同時に、独自の思考と判断のできる能力と表現力を身につけること。

文化デザイン学科

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

文化デザイン学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質と能力を育み、「感じとる力」「かたちにする力」「つなぐ力」をバランスよく身につけるために、共通教養科目、外国語科目、専門科目を配置しています。

共通教養科目の履修を通じて、専門科目の基礎となる洞察力、問題発見能力を培います。また、初年次に近大ゼミを置き、大学生として必要な「読む力」「書く力」「話す力」を高め、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を涵養します。外国語科目の履修を通じて、グローバル社会で活躍するための基礎となる外国語能力を養います。

専門科目では、人間の文化的・芸術的成果を社会につなげるシステムやプログラムをデザイン／構想し、創造し、プロデュース／実行するため知識と能力を修得し、それを実社会において実践することのできる人材を育成するため、以下のようなカリキュラム編成と教育方針を立てています。

1. 「感じとる力」「かたちにする力」「つなぐ力」の3つの領域にまたがる科目群を設置し、そのすべての領域を偏ることなく履修するカリキュラム編成を基盤とします。そのために、各領域それぞれに1年配当の必修科目「概論」を設置し、基礎的な理論と知識を修得します。概論では、「文化デザイン」に必要とされる感性と知性・判断力に基づく創造的思考力、デザイン思考、マネジメント力と課題解決の方法に関する基礎的な理論と知識を学びます。
2. 現代社会・グローバル社会において「文化デザイン」が持つ意味と役割の重要性を認識し、概論で修得した理論と方法をより深く学ぶため、各領域それぞれに属する選択必修科目を設置します。「文化デザイン」の社会での役割を考えるため、グローバルな知識や倫理的公共的理解の能力、社会現象への探求心も養います。
3. 1年次から必修として全教員の「ゼミナール」を課し、年次毎に研究テーマを絞りながら、最終的に4年次において一つのテーマに取り組む4年間の「段階的発展的ゼミナール教育」を少人数で行います。
4. 社会における問題解決能力を実践的に修得するため、ゼミナールや「スタジオ」で、学内のみならず学外の企業・団体ともコラボレーションし、幅広く社会貢献を行うための実践的なタスクワークを行います。ここでは問題解決とタスクワークのために必要な情報分析力、コミュニケーション力・調整能力、プレゼンテーションの技術などを養います。
5. 4年間の集大成として、ゼミナールⅣにおいて、創造的思考力・デザイン思考・マネジメント力などを総合的に駆使できることをはかるために、卒業論文・卒業制作・卒業プロジェクトに取り組みます。ゼミナール教員による個別指導とともに、学科全体として学生の研究をサポートします。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

文化デザイン学科は、人文諸学の基礎的知識と感性的直観力、美的感性と倫理的思考力を養い、それらを基礎にした実践活動に必要な創造的思考力・デザイン思考・マネジメント力・情報分析力、さらにチームワークに必要なコミュニケーション力・調整能力、加えて困難を克服するための問題解決能力などを修得した人材の育成を教育の趣旨としています。

このような教育の目的は、近畿大学の建学の精神「実学教育」と「人格の陶冶」、さらに近畿大学の教育の目的である「人に愛される、信頼される、尊敬される」に則ったものです。

この趣旨の下に厳格に成績評価を実施し、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士（文芸学）の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質・能力は以下のとおりです。

1. 関心・意欲・態度
 - 1) 様々の社会現象に問題意識を持ち、その課題の解決への探求心をもつこと。
 - 2) 解決すべき課題を他者と共有し、積極的にコミュニケーションを図ること。
2. 思考・判断
 - 1) 感性と知性の調和を保ち、良識に基づいた思考と判断力を修得していること。
 - 2) 現代に鋭敏な、また未来を見通す論理を超えた直観力を発揮できること。
3. 技能・表現
 - 1) デザイン、プロデュースの専門分野における基本的方法と技術についての知識、能力を修得していること。
 - 2) 思考内容や表現内容を論理的にプレゼンテーションする技術と能力を修得していること。
4. 知識・理解
 - 1) 文化、芸術、政治、経済、科学など人間活動の広範な分野についてグローバルな知識を持っていること。
 - 2) 物事について、他者の立場に立って考え社会貢献につながる倫理的公共的理解ができること。

I 学 修 要 項

1. 学科構成

文芸学部は、文学科（日本文学専攻・英語英米文学専攻）、芸術学科（舞台芸術専攻・造形芸術専攻）、文化・歴史学科及び文化デザイン学科の4学科で構成されています。

2. 学期及び授業時間

- (1) 学年を前期及び後期の2期に分け、それぞれ原則として15週ずつ授業を行います。
- (2) 文芸学部においては、ほとんどの授業科目が第1～5時限で開講されます。ただし、教職課程等の科目は、第6・7時限に開講される場合があります。

各時限の授業時間帯は次のとおりです。

第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
9:00～10:30	10:45～12:15	13:15～14:45	15:00～16:30	16:45～18:15

第6時限	第7時限
18:25～19:55	20:05～21:35

*上記の授業時間帯以外に集中講義科目等が開講される場合があります。

3. 授業科目の構成

- (1) 授業科目は、「共通教養科目」、「第一外国語（英語）」、「第二外国語」及び「専門科目」に分かれています。
- (2) 「専門科目」は、文芸学部独自の専門的な研究や教育を全うするための授業科目を系統的に、学科・専攻・コース毎に編成したもので、必ず単位を修得しなければならない科目（「必修科目」と、指定された方法で選択して単位を修得しなければならない科目（「選択必修科目」・「自由選択科目」）があります。

4. 授業形態と卒業単位数について

本学では様々な形態で授業を行います。代表的な授業形態は以下の通りです。

(1) 対面授業

教員が学生に対し、同じ空間（教室等）、同じ時間で授業を実施する形態です。

(2) メディア授業

同時オンライン授業：会議アプリ等を活用し、Webを介して自宅や教室以外で時間割に即して授業を受ける形態です。

オンデマンド授業：事前に教員が録画した授業を、時間割にとらわれず授業担当教員が定めた期間に視聴する形態です。

授業形態が「メディア授業」とされている授業で修得した単位の内、 <u>卒業要件として算定される単位数の上限は60単位です</u> 。60単位を超えた場合は、超過分の単位は卒業要件に算入されません。
--

大規模災害など、非常事態が発生した場合には特例措置をとることがあります。その際は大学から改めてお知らせします。

また、(1)と(2)を組み合わせた授業もあり、組み合わせにより対面授業またはメディア授業のどちらかに分類されます。シラバスの「授業形態」に記載していますので、授業内容とともにこの情報も参考にして履修登録を行って

ください。

※(1)と(2)を組み合わせた場合の対面授業の定義

授業回数の半数以上が「対面授業」として設定されている場合 ⇒ 対面授業と定義します

5. 単位制

- (1) 単位制とは、各授業科目について一定の履修基準に従い、これを履修し合格することによって、その授業科目毎に定められている単位を修得する制度です。
- (2) 単位数の計算は、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮し、原則として次の基準によります。
 - ① 講義及び演習については、内容に応じて15時間から30時間までの範囲で定める時間の授業をもって1単位とします。
 - ② 実験、実習及び実技については、内容に応じて30時間から45時間までの範囲で定める時間の授業をもって1単位とします。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、内容に応じて定める時間の授業をもって1単位とします。
 - ③ ①・②にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めています。

*一部の科目については、上記の基準によらずに単位数を定めているものもあります。

6. 学年制

本学部の修業年限は4年となっています。4年を超えて在学することはできませんが、8年を超えて在学することはできません。本学部では学年制を採用していますので、「第1学年」、「第2学年」、「第3学年」及び「第4学年」が存在します。在学年数が必ずしも当該「学年」を意味するわけではありません。例えば、在学年数が5年であっても3学年生ということがあります。

上級学年（1学年から2学年、2学年から3学年、3学年から4学年）へ進級するためには、当該学年次に休学期間を除いて1年間以上在学し、かつ所属の学科・専攻で定められた進級要件を満たさなければなりません。この条件を満たさなければ、留年となります。また、卒業するためには4学年に1年間以上在学しなければなりません。

7. 卒業証書・学位記

本大学に4年間以上在学し、所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得して、卒業資格を得た者には、卒業証書・学位記を授与します。（所定の単位数については各学科・専攻の授業科目表をご覧ください。）

9月卒業証書授与について

卒業に必要な単位が不足したために3月期に卒業出来なかった場合、次年度の前期に開講されている科目を履修することによって不足単位数24単位以内を満たすことができるならば、それらの科目を履修し、所定の単位を修得して、卒業資格を得た者には、9月に卒業証書・学位記を授与します。

8. 授業科目の選択及び履修登録

(1) 授業科目の選択

- ① 授業科目の履修に際しては、単位制の本質からみて、単に受講するだけでなく、自主的に学習を進める必要があります。また、履修した科目については、その科目の性質を理解し各自が自己の志向を考慮し、学習の目的を達成するように、在学期間を通じて系統だった選択をすることが望ましいです。
- ② 授業科目の選択は、原則は各自の自由に委ねられていますが、各学年配当科目の履修にあたっては、第一に

必修科目の履修に不足がないかどうかを確かめ、次に選択必修科目・自由選択科目等を履修するように心がけてください。必修科目が不合格になった場合は、年度をあげず再履修するようにしてください。

- ③ 文芸学部では学際的な学びに意義をみとめ、所属以外の学科・専攻が提供する科目を履修することができます。各学科・専攻コースの科目のうち※のある科目がその対象です。また、交換留学生合同科目、大学コンソーシアム大阪の単位互換科目もその対象です。履修した所属学科・専攻外の科目のうち卒業所要単位に含むことができるのは、自由選択科目として10単位（英語英米文学専攻は2単位）までとします。ただし、交換留学生合同科目は、この内4単位（英語英米文学専攻は2単位）を上限とします。
- ④ 卒業所要単位数は卒業に必要な最低修得単位ですので、授業科目の選択にはこれを上回る単位数を計算して履修登録の計画を立てる必要があります。

(2) 履修登録

- ① 各学期の始めに、その年度（期）に履修しようとする授業科目を選択し登録しなければなりません。この登録は授業科目の履修ならびに定期試験の受験に関して最も重要な手続きです。この登録なしに受講し受験をしても単位の認定は受けられません。
- ② 指定された履修登録期間外の履修科目の追加・変更は認められません。
- ③ 上級学年に配当されている科目を下級学年で履修することはできません。
- ④ すでに単位を修得した科目を再度登録（履修）することはできません。
- ⑤ 同一開講期・曜日・時限に2科目以上を重複して登録（履修）することはできません。
- ⑥ クラス指定された科目は、原則として指定されたクラスを変更することはできません。

9. キャップ制

(1) 制度について

履修登録できる単位数に上限を設けることが、キャップ制です。文芸学部では以下の表に示すとおり履修登録できる単位数に制限を設け、前期24単位、後期24単位の当該年度あわせて48単位を上限とします。

学年	「前期」 履修登録単位数の上限	「後期」 履修登録単位数の上限	「通年」 履修登録単位数の上限
1～4	24	24	48

(2) 成績によるキャップ制の緩和

成績が優秀な学生を対象に、次年度の履修登録単位数の上限を以下の通り緩和します。

第2学年、第3学年、第4学年への進級時に、前年度GPA値が3.50以上あった場合、履修登録単位数を各学期26単位までとする。

上記は、当該年度のみ有効とする。

(3) キャップ制除外科目（成績評価を「認定／不可」で行う科目）

「留学プログラムⅠ・Ⅱ」、「Study Abroad Programme」、「インターンシップ」、「キャリアリサーチ」、「自校学習」、「文化資源学自由研究」、大学・文芸学部留学制度より認定された科目

※成績評価の「認定」については、「17. 成績評価」参照

(4) キャップ制除外科目（成績評価を実点で行う科目）

- ① 「数的リテラシー」
- ② 教職課程・司書課程・博物館学課程・日本語教員養成課程科目のうち、卒業要件とならない科目
- ③ 大学コンソーシアム大阪との単位互換科目
 - (1) 履修対象者は2～4学年です。
 - (2) 修得した科目の単位数は、10単位まで（英語英米文学専攻は2単位まで）自由選択科目として認められます。
 - (3) 開講科目等の詳細については、大学コンソーシアム大阪の募集ガイドやホームページで確認してください。

10. 履修取り下げ

(1) 制度について

履修登録期間終了後、学部が定めた期間に、学生本人から申し出があった科目に関してのみ履修の取り下げを認めます。ただし、取り下げ期間中の履修科目の変更や追加は認められません。

詳しい手続き方法は、近大 UNIPA にて通知します。

(2) 履修取り下げ除外科目

例外的に履修取り下げの対象にならない科目があります。(p17「9. キャップ制」(3)(4)参照)

※ただし、「数的リテラシー」、「キャリアリサーチ」は除く。

※教職課程科目、司書課程科目は、所管部署に確認してください。

11. 試験について

試験には、「定期試験」(前期試験・後期試験)、「追試験」及び「再試験」があります。(この他に各授業科目担当者が必要に応じて臨時に試験を行う場合があります)

受験資格 (各試験共通)

次の各項に該当する者は受験資格がないので、たとえ試験を受けても無効となります。

- ① 履修登録をしていない者
- ② 授業料等学費の未納者
- ③ 学生証を所持していない者

* 試験当日学生証を忘れた場合は、「仮学生証」の貸出しを受けてください。(手数料が必要です)

- (1) 定期試験とは、各期終了時に履修登録済の科目について、学生全員を対象に行う試験をいいます。定期試験の時間帯は以下のとおりです。授業時間帯とは異なりますので、注意してください。

第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限	第6時限	第7時限
9:30～10:30	11:00～12:00	13:30～14:30	15:00～16:00	16:45～17:45	18:30～19:30	20:00～21:00

- (2) 追試験とは、定期試験を「正当な理由により受験できなかった」と文芸学部で認められた場合に限り、実施する試験をいいます。

追試験受験手続方法、受験資格及び試験日は、近大 UNIPA にて通知します。

「13. 文芸学部追試験規程」を参照してください。

- (3) 再試験とは、最終学年の者が履修登録をし、最終試験(定期試験・追試験)を受験した結果、不合格(成績評価「不可」となった科目について、その学年度内で実施する試験をいいます。「不受」の場合は、再試験は受けられません。

再試験受験手続方法、受験資格及び試験日は、近大 UNIPA にて通知します。

「14. 文芸学部再試験規程」を参照してください。

12. 受験時の注意

- (1) 「試験開始」の指示の後、まず最初に答案用紙に「科目名」「担当者名」「学部学科」「学年」「学籍番号」「氏名」を明瞭に記入すること。記入されていないものは無効になります。
- (2) 試験中の不正行為は絶対に許されません。万一、不正行為があった場合は、「15. 文芸学部定期試験等における不正行為に関する規程」に基づき処分します。
- (3) 試験中に物品(筆記具、消しゴム、その他)の貸借は認めません。
- (4) 試験開始後20分以上遅刻した者は受験できません。
- (5) 試験開始後45分を経過しなければ、退室はできません。

- (6) 答案用紙の試験場からの持ち出しは禁止します。
- (7) 答案用紙は一部ずつ配付し、破損の場合に限り新しい用紙と交換します。
- (8) その他、受験態度不良もしくは試験監督者の指示に従わない者には受験の停止を命じることがあります。

13. 文芸学部追試験規程

第1条 追試験については、本学学則第19条に基づき、この規程を定める。

第2条 (受験資格及びその手続)

定期試験を受験する資格を有するにもかかわらず、病気・不慮の事故等正当な理由により、専門科目、共通教養科目及び外国語科目につき定期試験を受けることができなかった者は、追試験の受験を申請することができる。ただし、実験、実習、実技及び演習科目を除く。

2 申請者は、追試験受験申込書に必要な証明書を添付して、追試験受験の申請をしなければならない。

3 本学部は、正当な理由があると認められた者に対して、追試験を実施する。

第3条 (受験科目)

当該学期に履修登録した科目に限り追試験を実施する。

第4条 (追試験日程及び実施方法)

追試験日程及び実施方法は、掲示板にて公表する。

第5条 追試験については、受験料を徴収する。

2 前項の規定により納入された受験料は、追試験を受けなかった場合においても、これを返還しない。

附 則 (略)

附 則

この規程の改正は、平成23年6月28日から施行する。

14. 文芸学部再試験規程

第1条 再試験については、本学学則第19条に基づき、この規程を定める。

第2条 (受験資格及びその手続)

本学部4学年学生で、専門科目、共通教養科目及び外国語科目の取得単位数の合計が118単位以上の学生に限る。

2 申請者は、再試験受験申込書に必要な事項を記入して、再試験受験の申請をしなければならない。

3 再試験受験資格者は、本学部で審査のうえ、認定する。

第3条 (受験科目の制限)

受験できる科目は、専門科目(卒業論文・卒業研究・卒業制作・卒業創作・卒業公演・Graduate Study・卒業プロジェクトを除く)、共通教養科目及び外国語科目のうち、当該年度の履修登録をしたうえで、定期試験・追試験を受験し不合格になった科目、または定期試験に準じるレポートを提出して不合格になった科目に限る。

2 再試験は、卒業資格単位に不足する単位数に該当する科目数まで受験することができる。ただし、6単位分を超えることはできない。

第4条 (受験科目の評価)

再試験受験科目の評価は、60点を最高限度とする。

第5条 (再試験日程及び実施方法)

再試験日程及び実施方法は、掲示板にて公表する。

第6条 再試験については、受験料を徴収する。

2 前項の規定により納入された受験料は、再試験を受けなかった場合においても、これを返還しない。

附 則 (略)

附 則

この規程の改正は、平成27年4月1日から施行する。

15. 文芸学部定期試験等における不正行為に関する規程

第1条 次の事項に該当する行為は不正行為とする。

- (1) 本人が自分に代えて他人に定期試験を受験させたとき。
- (2) カンニングペーパー、参照を許されていない教科書・ノート・参考書等や、他人の答案等を盗み見たとき、あるいは携帯電話等の電子機器を使ってカンニングを行ったとき。
- (3) 故意に(1)(2)の行為に協力したとき。
- (4) その他試験の公正を害したとき。
- (5) 本人が自分に代えて他人にレポート・論文・作品等の課題（卒業論文、卒業制作、卒業作品等を含む）を作成させたとき。
- (6) レポート・論文・作品等の課題（卒業論文、卒業制作、卒業作品等を含む）における剽窃（盗用）行為。
- (7) レポート・論文・作品等の課題（卒業論文、卒業制作、卒業作品等を含む）作成において、利用を許されていない手段（代行業者、翻訳サービスなど）を用いたとき。
- (8) 故意に(5)(6)(7)の行為に協力したとき。
- (9) その他課題による成績評価の公正を害したとき。

第2条 前条に定める不正行為を行った者は、学則第41条により処分される。

- (1) 前条(1)～(4)については、その不正行為が摘発された時から、その試験期間中の受験資格を停止し、当該学期に履修登録したすべての科目の成績を無効とする。ただし、前条第4項にかかわる行為においては、当該試験科目のみを無効とする場合がある。
- (2) 前条(5)～(9)については、その不正行為によって作成されたレポート・論文・作品等の課題（卒業論文、卒業制作、卒業作品等を含む）について、成績評価担当者が不受理 / 0点 / 減点の対応を行う。同時に、不正行為の内容によっては、その課題によって成績が判定される科目の単位を無効とすること、あるいは当該学期に履修登録したすべての科目の成績を無効とすることを含め、厳正に対処する。

第3条 第1条(1)～(4)定期試験による不正行為に関わる処理と手続きは次のとおりとする。

- (1) 試験期間ごとに試験実施責任者をおく。試験実施責任者は学部長が任命する。
- (2) 試験監督者は、不正行為を発見したとき、ただちに当該学生の場合用紙など証拠となるものを取り上げ、学生証を預かり、そのまま試験場に待機させ、試験終了後、文芸学部学生センターへ連れて行く。
- (3) 試験監督者は、試験終了後試験実施責任者に報告する。
- (4) 試験実施責任者は、試験監督者ととも当該学生（第1条第1項の場合は代人も）から事情や弁明を聞き、処分の決定があるまで自宅などで待機するよう命じる。
- (5) 試験実施責任者は、不正行為が第2条に定める当該試験科目のみを無効とする処分にあたりと判断したときは、以降の受験を認めるものとする。

第4条 第1条(5)～(9)課題に関わる不正行為に関わる処理と手続きは次のとおりとする。

- (1) レポート・論文・作品等の課題（卒業論文、卒業制作、卒業作品等を含む）における不正行為があったときは、成績評価担当者（複数名の場合もある）は不正の根拠となる資料を保管する。不正行為の指摘は成績評価担当者以外からの場合も含まれる。
- (2) 該当するレポート・論文・作品等の課題（卒業論文、卒業制作、卒業作品等を含む）によって成績が判定される科目の単位を無効とすること、あるいは当該学期に履修登録したすべての科目の単位を無効とする処分が必要と考えられる場合は、不正の根拠となる資料を添えて文芸学部学生センターに報告する。文芸学部学生センターは教務委員長に連絡する。
- (3) (2)に該当する場合は、当該学生の所属する学科・専攻の教務委員1名が成績評価担当者とともに当該学生から事情を聴取し、教務委員長と協議の上、不正行為の発生を認定する。

第5条 不正行為を行った学生に対する処分の検討と取り扱いについては別に定める。

第6条 この規程は、文芸学部が行う定期試験、追試験、再試験、成績評価に関わるレポート・論文・作品等の課

題（卒業論文、卒業制作、卒業作品等を含む）に適用する。

第7条 この規程の改廃は、学生委員会及び教務委員会の議を経て、教授会が決定する。

附 則

この規程の改正は、令和4年4月1日から施行する。

16. レポート・論文（卒業論文を含む）・作品（卒業制作・卒業作品を含む）等における剽窃・捏造行為について

(1) 「剽窃」「捏造」とは

「剽窃」とは、他人の著作から全部または部分的に文章、図表、語句、話の筋、思想などを盗み、自作の中に自分のものとして用いることです。「捏造」とは、実在しないテキストやデータなどを恣意的に作り、あたかも実在するものであるかのように示すことです。

「剽窃」や「捏造」は倫理に反する行為であり、著作権侵害などの法的責任を問われる場合もあります。文芸学部ではこれらを不正行為とみなし、厳正に対処します。

(2) 「剽窃」や「捏造」の例

レポートや論文の作成において、以下のような行為は「剽窃」または「捏造」に該当します。

① 剽窃に該当する例

- ・友人が書いたレポート等を写す行為。
- ・インターネット上の情報や他者の文章を、出典を明記せずに自分のレポート等に貼り付ける、あるいは自分の文章と区別せずに用いる行為（いわゆるコピー）。
- ・生成 AI が作成した文章や画像を、出典を明記せずに自分の創作物として使用する行為。

② 捏造に該当する例

- ・生成 AI などを用いて作成した実在しない（架空の）本文や画像を、あたかも実在するものであるかのように記載する行為。
- ・存在しない文献を参考文献として挙げる、あるいは情報を偽って引用する行為。

ここにあげた以外にも、剽窃や捏造に該当する場合があります。次の【「剽窃」や「捏造」をしないために】を参考にして適切に行動してください。

(3) 「剽窃」や「捏造」をしないために

① 適切に引用する

文献等を引用する際は、自分の文章と他人の文章を明確に区別し（明瞭区別性）、出典を明示するなどの厳格なルールを守ってください。詳細は近畿大学中央図書館ホームページの学修サポート等を参照してください。

② 担当教員の指示に従う

生成 AI に代表される web サービスの利用可否や利用方法は、授業や課題ごとに異なります。利用する場合は、必ず担当教員の指示に従ってください。

(4) 不正行為への対処

「剽窃」や「捏造」が認定された場合は、「15. 文芸学部定期試験等における不正行為に関する規程」第1条(6)または(9)に該当する不正行為とみなし、同規程に基づき厳正な処分の対象となります。

レポート・論文・作品等は、それを表した人の大事な自己表現です。レポートや論文・試験でも自分の文章に誇りを持ち、自身の個性を存分に発揮してください。

17. 成績評価

(1) 履修科目の合格・不合格

100点満点の実点で、60点以上が「合格」となり、59点以下は「不合格」となります。

(2) 成績の評価

成績の評価は、次のように表示されます。

秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）
不受（試験欠席やレポート未提出等）

合格・不合格（60点以上か59点以下か）のみを判定する場合は、合格を「認定」と表示します。

(3) 成績通知と成績証明書

成績通知（毎年度前期末と後期末に近大 UNIPA 成績照会で公開）では、履修登録を行った全ての科目について実点が記載され、成績評価の要件に満たない場合（試験欠席やレポート未提出等）は、「不受」とします。（成績通知の方法は改めてお知らせします。）

成績証明書では、単位修得（合格）科目とその成績評価を記載します。

ただし、GPA には「不可」や「不受」も反映されますので注意してください（「18. GPA 制度」参照）。

(4) 休学期間中は、当該年度に科目の単位を修得することはできません。前期休学者は、当該年度の通年開講科目及び前期開講科目の単位を修得することができません。また、後期休学者は、当該年度の通年開講科目及び後期開講科目の単位を修得することができません。

18. GPA (Grade Point Average) 制度

(1) 制度について

近畿大学では、100点満点の実点および「秀・優・良・可・不可・不受」の成績評価に対応させて、成績評価の指標として GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度を施行しています。GPA とは、100点満点の実点を5段階の GP（グレード・ポイント）に置き換え、その科目の単位数と関連させて GP の平均値を算出した、最高点4点から最低点0点までの数値です。

GPA 制度の意義は、GPA や GP によって自分の学修の全体的な達成度合いを簡便に測ることができる点にあります。GPA あるいは GP に基づいて、自分の弱点を把握し、履修計画や学修状況を反省し、より実効性のある勉学に取り組むことができるのです。

GPA は欧米の大学で広く採用されている評価方法であり、日本の大学のグローバル化に対応する制度です。すなわち、海外留学、海外の大学院進学、外資系企業への就職などの際に幅広く通用する国際標準の成績評価制度であり、拡大するグローバル社会において必要かつ有効な制度です。

(2) GPA 値の計算方法

GPA は以下の数値と計算式で算出されます。

実点	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	不受
成績評価	秀	優	良	可	不可	(不受)
GP	4	3	2	1	0	0

$$\text{GPA} = \frac{\{(\text{履修登録科目の単位数}) \times (\text{履修登録科目の GP})\} \text{の総和}}{\text{総履修登録科目の単位数}}$$

- ☞ 実点は当該科目の点数を表します。
- ☞ GPA は小数第3位を四捨五入して、表記は小数第2位までとします。
- ☞ GP の最高点は4点、最低点は0点になります。
- ☞ 不可になった科目または不受験の科目を再履修して単位を修得した場合、通算の GPA には過去の GP=0 は算入されず再履修の GP のみが算入されます。ただし、再履修をしても不可・不受験であった場合は、通算 GPA には過去の GP=0 と再履修時の GP=0 の両方が算入されます。
- ☞ 進級要件、卒業要件には GPA を適用しません。

(3) GPA からの除外科目

キャップ制除外科目（「9. キャップ制」(3)(4)参照）は、GPA の計算式からも除外されます。

19. 休講と補講

- (1) 気象警報又は台風・地震等による交通機関運行停止の場合における授業の取扱い
規定は以下「気象警報及び台風・地震等による交通機関の運行停止に伴う授業の取扱い」のとおりです。
- (2) (1)以外で、やむを得ず休講となる場合は、原則補講が行われます。日程等は、近大 UNIPA にてお知らせします。

気象警報及び台風・地震等による交通機関の運行停止に伴う授業の取扱い

暴風警報等が発表された場合及び台風や地震等により交通機関が運行停止となった場合、授業の取扱いについては、学内規程「気象警報及び台風・地震等による交通機関の運行停止に伴う授業の取扱いについて」に基づき以下のとおりとします。ただし、居住されている地域の被災により避難指示が発表された場合や通学することが困難な場合は、身の安全を最優先に考え、適切な行動をとってください。また、以下の事例以外に特別な事態が生じた場合にも授業の短縮や休講となる場合があります。

特別警報又は暴風警報発表の場合

特別警報又は暴風警報が以下のいずれかの地域に発表された場合は次のとおり休講とします。ただし、特別警報が発表された場合は終日休講とします。また、特別警報又は暴風警報が授業時間中に発表された場合は、授業を中止して休講とします。

1. 警報発表対象地域

大阪府：大阪市、北大阪（豊中市・池田市・吹田市・高槻市・茨木市・箕面市・摂津市・島本町・豊能町・能勢町）、東部大阪（東大阪市・守口市・枚方市・八尾市・寝屋川市・大東市・柏原市・門真市・四條畷市・交野市）、南河内（富田林市・河内長野市・松原市・羽曳野市・藤井寺市・大阪狭山市・太子町・河南町・千早赤阪村）、泉州（堺市・岸和田市・泉大津市・貝塚市・泉佐野市・和泉市・高石市・泉南市・阪南市・忠岡町・熊取町・田尻町・岬町）

兵庫県：阪神（神戸市・尼崎市・西宮市・芦屋市・伊丹市・宝塚市・川西市・三田市・猪名川町）

奈良県：北西部（奈良市・大和高田市・大和郡山市・天理市・橿原市・桜井市・御所市・生駒市・香芝市・葛城市・平群町・三郷町・斑鳩町・安堵町・川西町・三宅町・田原本町・高取町・明日香村・上牧町・王寺町・広陵町・河合町）、五條・北部吉野（五條市北部・吉野町・大淀町・下市町）

京都府：京都・亀岡（京都市・亀岡市・向日市・長岡京市・大山崎町）、山城中部（宇治市・城陽市・八幡市・京田辺市・久御山町・井出町・宇治田原町）、山城南部（木津川市・笠置町・和束町・精華町・南山城村）

2. 暴風警報解除時刻と授業開始時限

解除時刻	授業開始時限
6時00分時点で解除	1時限目から実施
10時00分時点で解除	3時限目から実施
13時00分時点で解除	6時限目から実施
13時00分時点で警報発表中	全時限休講

* 6時00分時点で特別警報が発表されている場合は解除時刻にかかわらず終日休講

特別警報が発表された場合、該当地域は数十年に一度しかないような非常に危険な状況にあります。自宅や通学中の学生で特別警報が発表された地域にいる場合は、特別警報の種類は問わず、自身の判断により命を守るために最善と思われる行動をとってください。ただし、特別警報発表時に大学構内にいる学生は、大学の指示に従って行動してください。

交通機関の運行停止の場合

台風・地震等により以下に該当するいずれかの交通機関が運行停止となった場合、運行が再開された時刻により

次のとおり休講とします。ただし、当該交通機関での事故等による一時的な運行停止は対象とならないので注意してください。

1. 対象交通機関

【台風・地震等の災害による運行停止】

- ① 近鉄「大阪線」(大阪上本町～大和八木間)、「奈良線」が同時に運行停止になった場合
- ② JR西日本(※参照)、南海(南海本線及び高野線)、阪急、阪神、京阪、大阪メトロのうち2以上の交通機関の全線が同時に運行停止になった場合
※JR西日本は大阪環状線、京都線(京都～大阪)、神戸線(大阪～姫路)、学研都市線(京橋～木津)、東西線(京橋～尼崎)、宝塚線(大阪～新三田)、ゆめ咲線(西九条～桜島)、大和路線(加茂～JR難波)、阪和線(天王寺～和歌山)、おおさか東線(大阪～久宝寺)を対象とします。なお、JR西日本のみで2以上の路線が運行停止となった場合は休講の対象となりません。

【ストライキによる運行停止】

- ① 近鉄が運行停止になった場合
- ② JR西日本、南海、阪急、阪神、京阪、大阪メトロのうち2以上の交通機関が同時に運行停止になった場合
- ③ JR阪和線全線及び南海本線全線が同時に運行停止になった場合

2. 運転再開時刻と授業開始時限

運転再開時刻	授業開始時限
6時00分時点で再開	1時限目から実施
10時00分時点で再開	3時限目から実施
13時00分時点で再開	6時限目から実施
13時00分時点で運行停止中	全時限休講

20. 欠席届

やむを得ない理由により授業を欠席した場合、Slack【文芸学部欠席届申請書フォーム】より欠席届の申請手続きをすることができます。手続きが完了した欠席届は、各自で授業担当者に提出してください。

なお欠席届は正当な理由で欠席したことを教員に示すもので「出席扱い」を約束するものではありません。

欠席届に記載された期間の欠席の取り扱いは、該当授業科目担当者の判断に委ねられます。

学校感染症(インフルエンザ等)と診断された場合は、治癒するまでの期間は出席停止となります。

・申請に必要なもの

証明書類

※証明書類とは、傷病の場合は加療期間が明記された診断書、学校感染症治癒証明書(大学所定様式)、忌引き(原則として3親等以内)の場合は会葬礼状などの証明できる書類です。

・申請受付期間

欠席最終日の翌日から7日以内

・申請方法

Slack【文芸学部欠席届申請フォーム】より

証明書類がない場合や、やむを得ない理由と認められないときは、申請は受け付けられませんので注意してください。また、該当授業科目担当者より成績報告があった後は、原則として申請は受け付けられません。

21. 文芸学部学業成績優秀特待生

4学年を除く各在学年次において、定められた基準を満たした学業成績優秀者は、次年度(次学年)の授業料について免除になる特待生制度の審査に申請することができます。

申請期間・方法や結果発表時期については、後期成績発表時等にお知らせします。規程は次のとおりです。

文芸学部特待生規程施行細則（抜粋）

（目的）

第1条 この細則は、近畿大学特待生規程（以下「規程」という。）第11条第1項の規定に基づき文芸学部において特待生制度の施行に必要な細目について定める。

（種類、資格等）

第2条

2 規程第2条第2項第2号に定める特待生（以下「在学特待生」という。）の候補となる資格は、次に掲げる条件を全て満たし、文芸学部学生センターが定める様式にて、所定の期日までに在学特待生となることを申請した者に認める。なお、第1号①に係る申請は同号②に係る申請を兼ねるものとする。

（1）次のいずれかを満たして次年度へ進級すること。

① 特待生（A）

- ア 2年次進級時 36単位以上を修得し、進級に係る年度の平均点が90点以上
- イ 3年次進級時 72単位以上を修得し、進級に係る年度の平均点が90点以上
- ウ 4年次進級時 108単位以上を修得し、進級に係る年度の平均点が90点以上

② 特待生（B）

- ア 2年次進級時 36単位以上を修得し、進級に係る年度の平均点が85点以上
- イ 3年次進級時 72単位以上を修得し、進級に係る年度の平均点が85点以上
- ウ 4年次進級時 108単位以上を修得し、進級に係る年度の平均点が85点以上

（2）前年度又は前々年度において、TOEIC L&Rの成績500点以上（文芸学部英語専攻においては700点以上）を取得していること。

（3）各学年・各学科の進級に係る年度の平均点の順位が次に掲げる条件を満たすこと。

① 特待生（A）

申請がなされた者のうち、各学科2名以内かつ学部合計8名以内

② 特待生（B）

申請がなされた者のうち、各学科5名以内かつ学部合計20名以内

3 前項に定める基準における単位数及び平均点の計算は、次の各号に従う。

（1）単位数

進級の判定までに本学において修得した卒業要件に算入される科目で算出する。

（2）平均点

① 進級の判定までに本学において進級に係る年度に修得した卒業要件に算入される科目から、成績評価が認定となる科目（点数で評価されない科目）を除いて算出する。

② 小数点以下を切り捨てて算出する。

（減免等）

第3条 規程第6条第1項第1号及び第2号に基づき、特待生に対し次のとおり減免する。

（3）在学特待生

① 特待生（A）

前期授業料及び後期授業料の全額を免除する。

② 特待生（B）

前期授業料及び後期授業料のそれぞれ半額を免除する。

2 第1項に基づき免除を受ける者は、規程第6条第2項の定めるところに従い、授業料免除の対象外となる部分について納付しなければならない。

（免除期間）

第4条

2 在学特待生の免除の期間は、1年間とする。

(所管)

第5条 この規程の運用に必要な事務は、大学運営本部文芸学部学生センターが担当する。

附 則

この細則は、令和6年4月1日から施行する。

22. 教職課程と司書課程

教職課程は教職教育部で担当し、本学各学部卒業後、高等学校・中学校の教員を希望する学生のために、教員免許を取得するのに必要な免許資格を修得させることを目的としています。

履修希望者は「教職課程履修ガイダンス」に出席し、その指示に従って手続きしてください。

取得免許教科の種類

学 科 名	高等学校教諭一種 免許状（免許教科）	中学校教諭一種 免許状（免許教科）
文学科（日本文学専攻）	国 語	国 語
文学科（英語英米文学専攻）	英 語	英 語
芸術学科（舞台芸術専攻）	国 語	国 語
芸術学科（造形芸術専攻）	美 術・工 芸	美 術
文化・歴史学科	公 民・地 理 歴 史	社 会

注意点

1. 詳細は「教職課程履修ガイダンス」で配布する『教職課程履修要項』を参照してください。
2. 教職教育部開講科目は、進級・卒業所要単位には含まれません。
3. 時間割の編成によっては教職課程を履修することが難しい場合があります。

司書課程の履修希望者は、「司書課程ガイダンス」に出席し、その指示に従って手続きをしてください。

23. 学芸員資格（博物館学課程）

1. 文芸学部にて学芸員資格取得希望者のために博物館学課程を置く。
2. 学芸員資格取得希望者は、文部科学省令で定める科目を履修し、その単位を修得しなければなりません。
3. 学芸員資格を取得するためには、学士の学位を有していなければなりません。
4. 博物館学課程の履修科目は下表のとおりです。

区分	授 業 科 目	配当 学年	単位数	修得すべき単位数
必 修 科 目	生涯学習概論	1	2	10科目19単位 (すべて博物館学課程独自の科目である。)
	博物館概論	1	2	
	博物館経営論	2	2	
	博物館資料論	2	2	
	博物館資料保存論	2	2	
	博物館展示論	2	2	
	博物館教育論	2	2	
	博物館情報・メディア論	2	2	
	博物館実習A	3	1	
	博物館実習B	3	2	
選 択 必 修 科 目	◎ 書誌学 1	2	2	選択必修科目から4科目8単位以上
	◎ 書誌学 2	2	2	
	□ 日本美術史 A	1	2	
	□ 日本美術史 B	1	2	
	□ 西洋美術史 A	1	2	
	□ 西洋美術史 B	1	2	
	□ 現代美術論 A	1	2	
	□ 現代美術論 B	1	2	
	□ アジア美術史	2	2	
	□ 工芸論 A	2	2	
	□ 工芸論 B	2	2	
	□ 表現論 I A ☆	2	2	
	□ 表現論 I B ☆	2	2	
	□ 表現論 II A ☆	2	2	
	□ 表現論 II B ☆	2	2	
	※ 日本史概説	1	2	
	※ 日本古代史 I	2	2	
	※ 日本古代史 II	2	2	
	※ 日本中世史 I	2	2	
	※ 日本中世史 II	2	2	
	※ 日本近世史	2	2	
	※ 日本近世史特講	2	2	
	※ 日本近現代史	2	2	
	※ 日本近現代史特講	2	2	
	※ 日本考古学 I	1	2	
	※ 日本考古学 II	1	2	
	※ 歴史考古学 I	2	2	
	※ 歴史考古学 II	2	2	
	※ 日本思想史 I	2	2	
	※ 日本思想史 II	2	2	
※ 文化資源学概説	1	2		
※ 日本民俗学	1	2		
※ 環境民俗論	1	2		
※ 近畿歴史文化探索	1	2		
※ 世界史概説	1	2		
※ デジタル・ヒューマニティーズ I	1	2		
※ デジタル・ヒューマニティーズ II ☆	1	2		

区分	授 業 科 目	配 当 学 年	単 位 数	修 得 す べ き 単 位 数
選 択 必 修 科 目	▽ 西 洋 芸 術 文 化 史 A	1	2	選 択 必 修 科 目 か ら 4 科 目 8 単 位 以 上
	▽ 西 洋 芸 術 文 化 史 B	1	2	
	▽ 日 本 芸 術 文 化 史 A	1	2	
	▽ 日 本 芸 術 文 化 史 B	1	2	
	▽ デ ザ イン 基 礎 演 習 A ☆	1	2	
	▽ デ ザ イン 基 礎 演 習 B ☆	1	2	
	▽ デ ザ イン 基 礎 演 習 C ☆	1	2	
	▽ プ ロ デ ュ ー ス 史 ☆	1	2	
	▽ プ ロ デ ュ ー サ ー 論	1	2	
	▽ デ ザ イン 史 A	1	2	
	▽ デ ザ イン 史 B	1	2	
	▽ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン デ ザ イン 論 ☆	1	2	
	▽ 空 間 デ ザ イン 論	2	2	
	▽ 視 覚 デ ザ イン 論 ☆	2	2	
	▽ イ メ ー ジ 論 ☆	2	2	
	▽ 近 畿 風 土 論	2	2	
▽ 文 化 政 策 論	2	2		
▽ 劇 場 文 化 論	2	2		

◎文学科日本文学専攻の科目 □芸術学科造形芸術専攻の科目
 ※文化・歴史学科の科目 ▽文化デザイン学科の科目
 ☆所属する学科専攻の学生のみ履修可能科目

(1) 受講登録

博物館学課程受講希望者は、新規受講ガイダンスの際にお伝えする申請方法に従って手続きしてください。

(2) 履修方法

「必修科目」19単位と、「選択必修科目」から8単位以上を修得しなければなりません。

(3) 履修上の注意

- ① 博物館経営論、博物館資料論、博物館資料保存論、博物館展示論は、博物館概論の単位を修得した者に履修を許可します。
- ② 博物館実習A・Bは、博物館経営論、博物館資料論、博物館資料保存論、博物館展示論のうち2科目以上の単位を修得した者に履修を許可します。
- ③ 博物館実習A・Bは継続して履修登録するものとし、Aの単位を修得した者にBの履修を許可します。
- ④ 博物館実習A・Bの受講に際しては、博物館実習費用等が発生するので、受講料として1万円を徴収します。
- ⑤ 博物館実習A・Bの受講希望者は、博物館実習ガイダンスの際にお伝えする申請方法に従って手続きしてください。
- ⑥ 選択必修科目は、すべて文芸学部の専門科目です。
- ⑦ 必修科目は、進級・卒業所要単位には含まれません。

24. 日本語教員養成課程

日本の国際化・グローバル化により、日本の国内外で日本語の修得を必要とする日本語学習者が増加し、これに伴い日本語教員の需要が増えています。文芸学部では、このような社会的ニーズに応えるため、日本語教育関連の科目を開設し、日本語教員の養成課程を設けています。

1. 文芸学部日本語教員養成課程を設置する。
2. 以下の要件を満たした者に修了証明書を交付する。

区分	授 業 科 目	配当学年	単位数	修得すべき単位数		
必修科目	言語	日本語音声学	1	2	12 単位	
		日本語教育文法	1	2		
	言語と教育	日本語教授法 1	1	2		
		日本語教授法 2	1	2		
		日本語教授法 3	2	2		
日本語教授法 4		2	2			
選択必修科目 1	言語	日本語学概論 日本語文法 日本語史論 1 日本語史論 2 ★ English Linguistics A ★ English Linguistics B	1 1 2 2 1 1	2 2 2 2 2 2	6 単位以上	
選択必修科目 2	社会・文化・地域	◎国際社会と日本	1	2	2 単位以上	合わせて 8 単位以上
		◎地域と環境の地理学	1	2		
		◎国際経済入門	1	2		
		◎日本文学論	1	2		
		★ Comparative Literature A	2	2		
		★ Comparative Literature B	2	2		
		★ Culture and Literature	3	2		
		※日本史概説	1	2		
		▽伝統芸能作品研究 A	2	2		
		▽伝統芸能作品研究 B	2	2		
	言語と社会	社会言語学 1	2	2	2 単位以上	
		社会言語学 2	2	2		
日本語特殊講義 1		2	2			
日本語特殊講義 2		2	2			
※現代学入門		1	2			
※言語文化セミナー初級		2	2			
※言語文化セミナー 1		3	2			
※言語文化セミナー 2		3	2			
☆多文化共生社会と言語	3	2				
言語と心理	◎国際化と異文化理解	1	2	2 単位以上		
	◎心理と行動	1	2			
	☆グローバル共生論入門	2	2			

◎共通教養科目
 ★文学科英語英米文学専攻の科目
 ▽芸術学科舞台芸術専攻の科目
 ※文化・歴史学科の科目
 ☆日本語教員養成課程の科目
 ◎、★、▽、※、☆以外はすべて文学科日本文学専攻の科目

履修上の注意：『☆日本語教員養成課程の科目』は本課程に登録している人のみ履修できます。

また、進級・卒業所要単位には含まれません。

25. 奨学金制度

- (1) 近畿大学独自の支援
- (2) その他、団体等の支援（日本学生支援機構等）

(1) (2) いずれの奨学金についても、募集や資格条件等の詳細については、近畿大学ホームページや、奨学金ポータルサイト等、学生部奨学金担当からの案内を確認してください。

26. 中央図書館案内

学習・研究にあたっては、中央図書館を大いに活用してください。

中央図書館は、中央館（10号館）・ビブリオシアター（5号館）と19号館図書室・A館図書室・B館図書室の3つの分室からなります。中央図書館を利用する際に、是非知っておいてほしい項目を下記に記載します。

利用の詳細については、中央図書館ホームページまたは中央図書館の各カウンターでお尋ねください。

1. 開館時間（中央図書館）

開講期：（月～土曜日） 8：45～22：00

閉講期：（月～土曜日） 9：00～18：00

試験期：（月～土曜日） 8：30～22：00

日曜・休日開館日： 10：00～18：00

※館内へは学生証を使って入館してください。

※長期休暇期間や大学行事等により、休館又は閉館時間が異なりますので、ご利用の際は、中央図書館ホームページや公式Xにて最新の情報をご確認ください。

2. 貸出冊数・期間

学生：10冊 15日以内

院生：20冊 1か月以内

※貸出の際には学生証が必要です。

※長期休暇期間、前期・後期定期試験期間中は、貸出冊数・期間を変更することがあります。

3. 授業計画（Syllabus）参考文献について

「授業計画（Syllabus）」で教員が参考文献に指定した図書を配架しております。講義・実験・実習や定期試験等に活用してください。

4. 各種講習会について（オーダーメイドによる随時開催など）

図書館では、より良いレポート・論文を作成するための情報収集法や、各種データベース・電子資料の使い方などを講習会形式でお教えします。どうぞご利用ください。

講習会の内容や申込についての詳細は、中央図書館ホームページなどでお知らせします。

5. 電子資料の利用

学外からパソコン・スマートフォンで、電子ブック・電子ジャーナル・データベースなどを利用することができます。

中央図書館 URL

中央図書館 HP

<https://www.clib.kindai.ac.jp>

データベース学外利用

https://www.clib.kindai.ac.jp/search/db_vpn.html

蔵書検索システム（OPAC）

<https://opac.clib.kindai.ac.jp>

中央図書館公式X

@Kindai_Clib



中央図書館 HP

Ⅱ 学科・専攻別

卒業・進級・履修要件と授業科目表

共通教養科目・第一外国語（英語）・第二外国語
卒業・履修要件と授業科目表

卒業要件

授 業 科 目	修得すべき単位数	
共 通 教 養 科 目		20 単位以上（「近大ゼミ」、「コンピュータ実習 1」を含む）
第一外国語（英語）	10 単位以上（必修 8 単位を含む）*	外国語科目 あわせて 14 単位以上 （文学科英語英米文学専攻は第二外国語 4 単位以上）
第 二 外 国 語		

共通教養科目、第一外国語（英語）、第二外国語 卒業所要単位数合計	34 単位以上 （文学科英語英米文学専攻は 24 単位以上）
-------------------------------------	-----------------------------------

注意点

* 第一外国語（英語）については、英語英米文学専攻は修得不要です。

共通教養科目

#印はキャップ制除外科目

区分	授業科目	配当学年	単位数	修得すべき単位数		
共 通 教 養 科 目	人間性・社会性科目群	人権と社会 1	1	2	2 単位以上 （自校学習除く）	あわせて 20 単位以上 （「近大ゼミ」、「コンピュータ実習 1」を含む）
		人権と社会 2	1	2		
		暮らしのなかの憲法	1	2		
		現代社会と倫理	1	2		
		心理と行動	1	2		
		現代の社会論	1	2		
		哲学と人間・社会	1	2		
		住みよい社会と福祉	1	2		
		自校学習	1	2 [#]		
	教養特殊講義 A	1	2			
	国際性・地域性科目群	地域と環境の地理学	1	2	2 単位以上	
		国際経済入門	1	2		
		国際社会と日本	1	2		
		国際化と異文化理解	1	2		
		日本文学論	1	2		
		教養特殊講義 B	1	2		
	課題設定・問題解決科目群	近大ゼミ	1	2（必修）	4 単位以上	
		生命の科学	1	2		
		思考の技術	1	2		
		日本語の技法	1	2		
科学・技術と社会		1	2			
キャリアデザイン		2	2			
キャリアデザイン実習		3	2			
数的リテラシー		2	2 [#]			
キャリアリサーチ		3	2 [#]			
コンピュータ実習 1		1	2（必修）			
コンピュータ実習 2		1	2			
データリテラシー入門		1	2			
暮らしのなかの起業入門		1	2			
教養特殊講義 C	1	2				
表現活動科目群	生涯スポーツ 1	1	1	2 単位以上		
	生涯スポーツ 2	1	1			
	心と体の健康	1	2			
	身体論	1	2			
	芸術と表現	1	2			

第一外国語（英語）・第二外国語

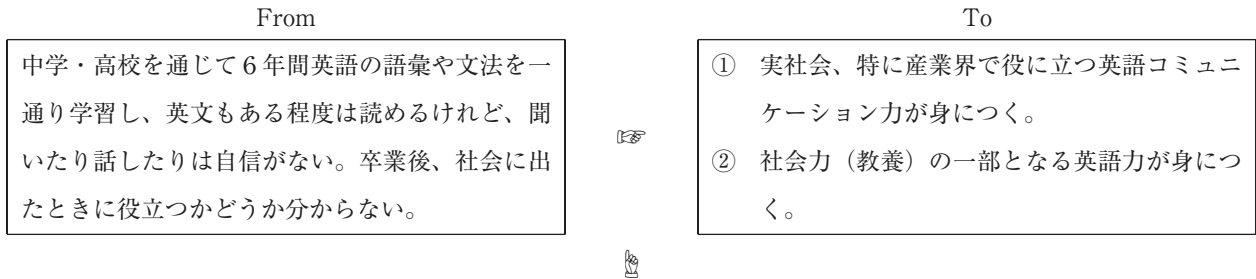
区分	授業科目	配当学年	単位数	修得すべき単位数		
第一外国語（英語）	英語1 A	1	1	必修8単位	第一外国語（英語） 10単位以上 (英語英米文学専攻は 修得不要)	第一外国語（英語）・ 第二外国語あわせて 14単位以上 (英語英米文学専攻は 第二外国語4単位以上)
	英語1 B	1	1			
	英語2 A	1	1			
	英語2 B	1	1			
	オーラルイングリッシュ1	1	1			
	オーラルイングリッシュ2	1	1			
	英語3	2	1			
	英語4	2	1			
	オーラルイングリッシュ3	2	1			
	オーラルイングリッシュ4	2	1			
	留学英語1	2	1			
	留学英語2	2	1			
	TOEIC 1	2	1			
	TOEIC 2	2	1			
	TOEIC 3	2	1			
	TOEIC 4	2	1			
	TOEFL 1	2	1			
	TOEFL 2	2	1			
	インターネット英語1	2	1			
インターネット英語2	2	1				
ESP 1	2	1				
ESP 2	2	1				
第二外国語	ドイツ語総合1	1	1			
	ドイツ語総合2	1	1			
	ドイツ語総合3	2	1			
	ドイツ語総合4	2	1			
	フランス語総合1	1	1			
	フランス語総合2	1	1			
	フランス語総合3	2	1			
	フランス語総合4	2	1			
	中国語総合1	1	1			
	中国語総合2	1	1			
	中国語総合3	2	1			
	中国語総合4	2	1			
	韓国語総合1	1	1			
	韓国語総合2	1	1			
	韓国語総合3	2	1			
	韓国語総合4	2	1			

区分	授業科目	配当学年	単位数	修得すべき単位数	
第 二 外 国 語	イタリア語総合1	1	1	第一外国語（英語）・ 第二外国語あわせて 14 単位以上 (英語英米文学専攻は 第二外国語 4 単位以上)	
	イタリア語総合2	1	1		
	イタリア語総合3	2	1		
	イタリア語総合4	2	1		
	スペイン語総合1	1	1		
	スペイン語総合2	1	1		
	スペイン語総合3	2	1		
	スペイン語総合4	2	1		
	ドイツ語コミュニケーション1	2	1		
	ドイツ語コミュニケーション2	2	1		
	ドイツ語コミュニケーション3	3	1		
	ドイツ語コミュニケーション4	3	1		
	フランス語コミュニケーション1	2	1		
	フランス語コミュニケーション2	2	1		
	フランス語コミュニケーション3	3	1		
	フランス語コミュニケーション4	3	1		
	中国語コミュニケーション1	2	1		
	中国語コミュニケーション2	2	1		
	中国語コミュニケーション3	3	1		
	中国語コミュニケーション4	3	1		
	韓国語コミュニケーション1	2	1		
	韓国語コミュニケーション2	2	1		
	韓国語コミュニケーション3	3	1		
	韓国語コミュニケーション4	3	1		
	イタリア語コミュニケーション1	2	1		
	イタリア語コミュニケーション2	2	1		
スペイン語コミュニケーション1	2	1			
スペイン語コミュニケーション2	2	1			

外国語科目履修の手引き

第一外国語（英語）

英語教育の共通基本目標



“From ⇄ To”を実現する手段としての「近畿大学の英語教育」

— 専門教育と教養をリンクさせる実践的な英語教育 —

共通基本目標

1. 国際社会の共通言語としての英語をコミュニケーションの道具として使いこなすために、バランスのとれた4技能の能力を養成する。
2. 自分の意見を英語で書いたり、発表したり、人とディスカッションしたりする積極的な態度を養成する。
3. 自分の考えを持って課題に取り組み、英語で発表したり、異なる文化をもつ人々とインタラクションしたりできる能力を養成する。
4. 自己評価に基づいて目標を設定し、確実に目標を達成する自律力を養成する。

具体的方策

上記の目標を達成するために以下の具体的方策を実施する。

1. プレイメントテストによる比較的少人数（15人～30人）の習熟度別クラスの編成。習熟度に応じて基礎から応用まで、実践的でわかりやすい授業の展開。
2. 学生のニーズに合わせた科目を開講。基幹科目で養った英語力及び教養、異文化理解力、アカデミックリテラシーなどをさらに深める。
3. 1年生全員にネイティブ教員によるオーラルコミュニケーションの授業の提供。間違いを恐れず、積極的に英語を話し、発表できる態度の養成。
4. コンテンツを重視した教材の使用。一般的な教養から専門の導入的話題について、学生同士が考え、話し合い、発表するやり甲斐のある活動を多く提供する。
5. 授業外活動の充実による学生の自律性の養成。英語村 E³ [e-cube (イーキューブ)] や外国語課外講座などの利用促進。e-learning 用ソフトや多読用図書の整備と、学生の利用促進。

英語履修案内

英語科目一覧

科 目 名	配当学年	単 位	開 講	備 考	
英語 1 A	1	1	前	日本人教員担当科目	必修科目
英語 1 B	1	1	前		
英語 2 A	1	1	後	日本人教員担当科目	
英語 2 B	1	1	後		
オーラルイングリッシュ 1	1	1	前	ネイティブ教員担当科目	
オーラルイングリッシュ 2	1	1	後		
英語 3	2	1	前	日本人教員担当科目	
英語 4	2	1	後		
オーラルイングリッシュ 3	2～4	1	前	ネイティブ教員担当科目	選択科目
オーラルイングリッシュ 4	2～4	1	後		
留学英語 1	2～4	1	前	日本人またはネイティブ教員担当科目	
留学英語 2	2～4	1	後		
TOEIC 1	2～4	1	前	日本人教員担当科目	
TOEIC 2	2～4	1	後		
TOEIC 3	2～4	1	前	日本人教員担当科目	
TOEIC 4	2～4	1	後		
TOEFL 1	2～4	1	前	日本人教員担当科目	
TOEFL 2	2～4	1	後		
インターネット英語 1	2～4	1	前	ネイティブ教員担当科目	
インターネット英語 2	2～4	1	後		
ESP 1	2～4	1	前	日本人教員担当科目	
ESP 2	2～4	1	後		

英語科目

<必修科目：科目名・概要>

英語 1 A / 英語 1 B (1 年前期科目)

英語 2 A / 英語 2 B (1 年後期科目)

伝達手段としての英語に必要な 4 技能 (読む、書く、聞く、話す) の基礎力の育成を目標とする。発音や音読練習を重視し、素早く反応できる応答能力を養成する。また基礎的な文法・語彙知識の習得を目指し、リスニング・速読能力の向上を図り、TOEIC の出題内容や形式に慣れ親しませる。さらに、比較的読み易いまとまった内容の文章を理解し、自己の発想や意見を正確に伝えることができる「発信型」の英語力を身につける。

オーラルイングリッシュ 1・2 (1 年前期・後期科目)

日常会話に必要な基礎的語彙を増やし、その用法に習熟させるとともに、さまざまな場面 (挨拶、自己紹介、電話、買物、食べ物の注文、道案内、予約、銀行、ホテル、病院、家庭など) で、ことばの機能 (許可、依頼、招待、提案、予定、計画など) を学び、ロールプレイを作成し演じることにより、基礎的な会話能力の向上を図る。

英語 3・4 (2 年前期・後期科目)

英語 1 A / 2 A・英語 1 B / 2 B で習得した語学力をさらに向上させ、伝達の手段としての英語力をより一層確実なものとするを目標とする。また TOEIC 等各種英語試験に対応できる能力の育成を図るとともに、専門的な英語 (ESP: English for Specific Purposes) の入門的な文章を読み、その要点をまとめる能力を身につける。

<選択科目：科目名・概要>

<2 年～4 年 (前期・後期) >

オーラルイングリッシュ 3・4

オーラルイングリッシュ 1・2 で学んだ内容をさらに深め、リスニング力・スピーキング力のさらなる向上を図る。身近なトピック (家族、住まい、音楽、スポーツ、友達、テレビ、仕事、休暇、学校生活など) について聞いたり、読んだりしたことを口頭で説明したり、自分の意見や感想をつけ加えて発表したり、簡単なディスカッションを行うことによって、進んだ会話力を身につける。また、簡単なスピーチ、ディスカッションやディベートを行い、プレゼンテーション能力の向上とともに、英語を用いた交渉能力の向上を図る。

留学英語 1・2

主に留学を考えている学生を対象に、英語圏で日常生活や学生生活に必要な英語力の養成を目指す。ナチュラルスピードで話される講義を聞き取ったり、レポートを英語で作成したりする訓練をする。併せて会話や TOEFL 対策を行う。

TOEIC 1・2

TOEIC 520 点以上取得するための演習を行う。TOEIC に必要な語彙・慣用句の知識を深め、文法事項を再確認するとともに、応答問題や会話問題の聞き取り練習を重点的に行い、リスニング能力を養成する。また、Eメール、ビジネスレター、注文書、広告、グラフなど読解に頻出するジャンルの英語の特徴を学ぶ。

TOEIC 3・4

TOEIC 600 点以上取得するための演習を行う。TOEIC 1・2 で掲げた目標のさらなる進展を図る。語彙力・文法力の増強、様々な場面で必要な会話表現の習得、長いナレーションを正確に聞き取る能力の向上を目指すと同時に、TOEIC で頻出するジャンルの英文を多読・速読することによって読解力を強化する。

TOEFL 1・2

外国の大学の学部・大学院への留学を希望する学生を対象に、TOEFL 550 点 (PBT)、79-80 点 (iBT) 以上を目指して、リスニング・文法・読解能力の向上を図る。さらに外国での学生生活に必要な会話表現を学び、自然な発音・イントネーションでコミュニケーションできるように訓練する。TOEFL に頻出する重要文法項目を習得し、アカデミックライティングの訓練も行う。また、説明文や講義に用いられる語彙・表現の特徴を習得し、速読・速解ができるように訓練する。

インターネット英語 1・2

インターネットに興味がある学生を対象に、インターネット上で必要とされる英語能力の向上を図る。情報収集や発信（メール、申し込み、注文など）の方法を学び、速読・速解そして課題解決能力を育成する。さらに英文のホームページの作成に取り組む。学習の過程で必要な会話表現を習得し、ネイティブのインストラクターとスムーズにコミュニケーションできる能力を身につける。

ESP (English for Specific Purposes) 1・2

専門分野で必要とされる英語力や国際社会で活躍する上で必要な英語力を養成する。そのため、教材は幅広いジャンルのものを利用する。教材を通じて専門的知識を深め、応用、発展させる能力を身につけ、英語による受信力のみならず発信力の強化を図る。

＜海外英語研修による単位認定＞

グローバルエデュケーションセンター主催の海外英語研修に参加し、所定の成績を得た者は、所定の手続きを経て以下の単位が認定単位として与えられる。

留学英語 1・2 (計 2 単位)

英語科目履修 14 単位モデル (文芸学部)

卒業要件として 10 単位以上の英語科目の履修が必要。(英語英米文学専攻を除く)

☆太枠内は必修科目、細枠内は選択科目。() 内は単位数を表す。

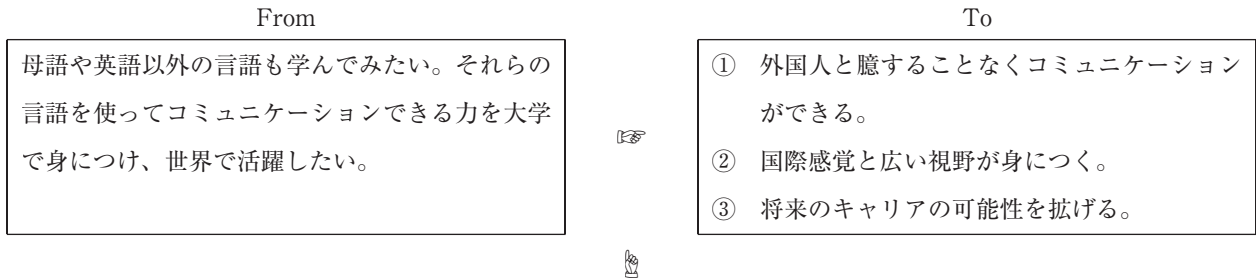
①標準モデル

1 年前期	1 年後期		2 年前期	2 年後期
英語 1 A (1)/1 B (1)	英語 2 A (1)/2 B (1)	→	英語 3 (1)	英語 4 (1)
オーラルイングリッシュ1 (1)	オーラルイングリッシュ2 (1)		オーラルイングリッシュ3 (1)	オーラルイングリッシュ4 (1)
			留学英語 1 (1)	留学英語 2 (1)
			TOEIC 1 (1)	TOEIC 2 (1)
			TOEIC 3 (1)	TOEIC 4 (1)
			TOEFL 1 (1)	TOEFL 2 (1)
			インターネット英語 1 (1)	インターネット英語 2 (1)
			ESP 1 (1)	ESP 2 (1)

上記科目は 2 年次から履修可能

第二外国語

第二外国語教育の共通基本目標



“From ⇄ To” を実現する手段としての「近畿大学の第二外国語教育」

— 今しかない、ゼロから始める第二外国語 —

共通基本目標

1. 英語以外に独仏中韓などの諸言語のいずれかを選択して集中的に学習し、当該言語を運用して十分なコミュニケーションを行う能力を培う。
2. 多様化する国際社会において相互に尊重、信頼し合う上で必要な感性を養い、異文化への理解を深め、これを通じて自分自身の文化をさらに深く理解する。
3. 外国語能力の修得によって、一人一人の学生が自らの個性と適性に応じた多様なキャリアプランを描くことができるようにする。

具体的方策

上記の目標を達成するために以下の具体的方策を実施する。

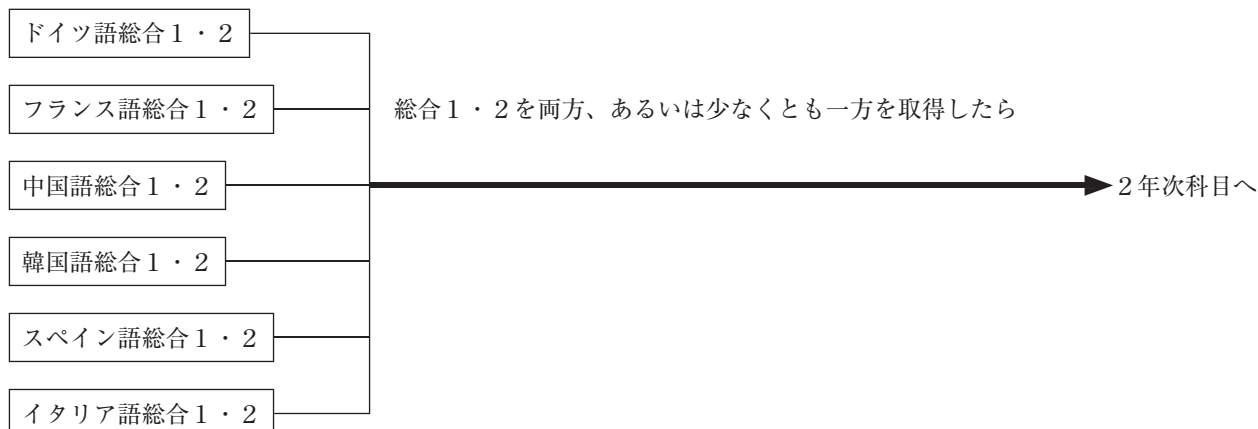
1. 第二外国語を学習する上で適正な規模のクラスを編成する。また、新たに学ぶ外国語の基本能力を習得する基幹科目、及びその能力を実用レベルにまで高める発展科目を設置する。
2. より着実に外国語能力を修得するために、学生が同一言語の基幹科目を2年間履修し、さらに発展科目も履修しながら、継続して学習するよう指導する。
3. 「国際化と異文化理解」などの教養科目と語学科目との連携を通じて、言語と異文化双方への理解を深め、国際的視野と深い教養が身につく環境を整える。
4. 外国語課外講座、語学検定対策、留学生との交歓会、スピーチコンテスト、留学および海外研修などの授業外活動を通じて、学習意欲と外国語運用能力のさらなる向上を図る。
5. 個々の学生を対象とする学習相談室を定期的に開設し、授業外でもきめ細やかな学習支援を行う。
6. 学生のキャリア形成、及び生涯にわたる外国語学習の契機とするため、外国語に関する資格の取得を奨励、支援する。

第二外国語科目一覧

科目名	配当学年	単位	開講	備考	
ドイツ語総合1 ドイツ語総合2	1 1	1 1	前後	日本人またはネイティブ教員担当科目	基幹科目
フランス語総合1 フランス語総合2	1 1	1 1	前後		
中国語総合1 中国語総合2	1 1	1 1	前後		
韓国語総合1 韓国語総合2	1 1	1 1	前後		
スペイン語総合1 スペイン語総合2	1 1	1 1	前後		
イタリア語総合1 イタリア語総合2	1 1	1 1	前後		
ドイツ語総合3 ドイツ語総合4	2 2	1 1	前後	日本人またはネイティブ教員担当科目	
フランス語総合3 フランス語総合4	2 2	1 1	前後		
中国語総合3 中国語総合4	2 2	1 1	前後		
韓国語総合3 韓国語総合4	2 2	1 1	前後		
スペイン語総合3 スペイン語総合4	2 2	1 1	前後		
イタリア語総合3 イタリア語総合4	2 2	1 1	前後		
ドイツ語コミュニケーション1 ドイツ語コミュニケーション2	2 2	1 1	前後	ネイティブまたは日本人教員担当科目	発展科目
フランス語コミュニケーション1 フランス語コミュニケーション2	2 2	1 1	前後		
中国語コミュニケーション1 中国語コミュニケーション2	2 2	1 1	前後		
韓国語コミュニケーション1 韓国語コミュニケーション2	2 2	1 1	前後		
スペイン語コミュニケーション1 スペイン語コミュニケーション2	2 2	1 1	前後		
イタリア語コミュニケーション1 イタリア語コミュニケーション2	2 2	1 1	前後		
ドイツ語コミュニケーション3 ドイツ語コミュニケーション4	3 3	1 1	前後	ネイティブまたは日本人教員担当科目	
フランス語コミュニケーション3 フランス語コミュニケーション4	3 3	1 1	前後		
中国語コミュニケーション3 中国語コミュニケーション4	3 3	1 1	前後		
韓国語コミュニケーション3 韓国語コミュニケーション4	3 3	1 1	前後		

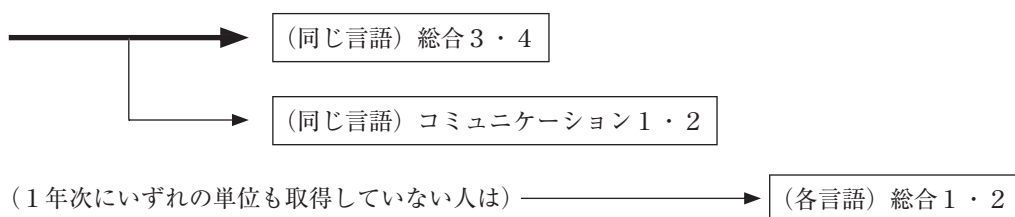
第二外国語履修フローチャート

1年次



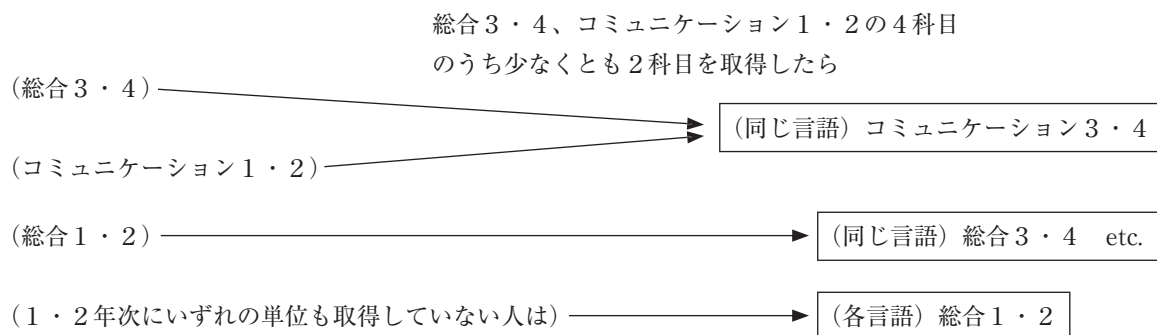
・「総合1」は前期科目、「総合2」は後期科目。同一言語を1・2継続して履修登録すること。履修する言語において、「総合1」を履修せずに、それぞれの「総合2」を履修することはできない。

2年次



- ・1と3は前期科目、2と4は後期科目。1・2および3・4は継続して履修登録すること。
 - ・「総合1・2」と「総合3・4」は基幹科目。「コミュニケーション1・2」は発展科目。
 - ・「総合3・4」と「コミュニケーション1・2」は並行して履修することができる。
- これらの科目は必ず1年次と同じ言語で履修すること。

3・4年次



- ・「コミュニケーション3」は前期科目、「同4」は後期科目。3・4は同一言語を継続して履修登録すること。
- これらの科目は必ず2年次と同じ言語で履修すること。
- ・なお、イタリア語とスペイン語のコミュニケーション3・4は開講しない。

第二外国語履修のガイドライン

*履修希望者は、下記の履修条件を満たしている者に限る。

科 目 名		履 修 条 件
ドイツ語 フランス語 中国語 韓国語 スペイン語 イタリア語	総合1・2	同一言語を1・2継続して履修登録すること <u>履修する言語において、「総合1」を履修せずに、それぞれの「総合2」を履修することはできない</u>
ドイツ語 フランス語 中国語 韓国語 スペイン語 イタリア語	総合3・4	同一言語を3・4継続して履修登録すること 前年までに同一言語の総合1・2のうち、少なくとも一方の単位を取得していることを条件とする
ドイツ語 フランス語 中国語 韓国語 スペイン語 イタリア語	コミュニケーション1・2	同一言語を1・2継続して履修登録すること 前年までに同一言語の総合1・2のうち、少なくとも一方の単位を取得していることを条件とする
ドイツ語 フランス語 中国語 韓国語	コミュニケーション3・4	同一言語の総合3・4、コミュニケーション1・2の4科目のうち、少なくとも2科目の単位を取得していることを条件とする

第二外国語科目

<科目名・概要>

<ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・スペイン語・イタリア語 総合1・2>

(1年次選択科目 [2年次再履修クラスも設ける]、1は前期、2は後期) (基幹科目)

(同一言語を1・2継続して履修する)

新しい外国語に慣れ親しみ、初歩的なコミュニケーションが図れるようにする。文字、発音、基本語彙と表現、文構造など、聞き、話し、読み、書くというバランスの取れた言語運用に不可欠な基礎的知識を習得する。週1回の授業。

<ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・スペイン語・イタリア語 総合3・4>

(2年次選択科目、3は前期、4は後期) (基幹科目)

(総合1あるいは2いずれか1科目修得を先修条件とする)

総合1・2で学んだ知識をもとに、その言語のさらにスムーズな運用ができるようにする。比較的長い表現を聞き取って、自分でも言えるように練習する。平易な文章を読みこなし、手紙や簡単な文章を書ける能力も養う。週1回の授業。

<ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・スペイン語・イタリア語 コミュニケーション1・2>

(2年次選択科目、1は前期、2は後期) (発展科目)

(総合1あるいは2いずれか1科目修得を先修条件とする)

「話す」と「聞く」という二つの側面に重点を置く。外国旅行でよく出会う場面や日常生活によくある場面などを用いて、情報を聞き取り、自分を表現する方法を練習する。週1回の授業。

<ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語 コミュニケーション3・4>

(3年次選択科目、3は前期、4は後期) (発展科目)

(総合3・4、コミュニケーション1・2の4科目のうちいずれか2科目修得を先修条件とする)

主に日常会話中心に口頭による言語運用能力の基礎を完成させる。より詳細な表現を聞き取って、自分でも正確に言えるように口頭練習し、様々な場面でさらに詳しい情報交換ができるようにする。週1回の授業。

文学科日本文学専攻
卒業・進級・履修要件と授業科目表

卒業要件

卒業するためには、4年間以上在学（ただし、各学年1年以上在学すること）し、以下の授業科目表の単位数以上を修得していること。

授 業 科 目			修得すべき単位数			
共通教養科目・外国語科目	共通教養科目	人間性・社会性科目群 (自校学習除く)	2 単位以上	20 単位以上 (近大ゼミ、コンピュータ実習1を含む)	34 単位以上	
		地域性・国際性科目群	2 単位以上			
		課題設定・問題解決科目群	4 単位以上			
		スポーツ・表現活動科目群	2 単位以上			
	第一外国語（英語）(必修8 単位含む)	10 単位以上	あわせて 14 単位以上			
第二外国語						
専 門 科 目	言語・文学コース	必修科目	講義	10 単位	80 単位以上	90 単位以上
			卒業論文・卒業制作	4 単位		
			コース必修	4 単位		
			演習	8 単位		
	選択必修科目	I（コース共通）	12 単位以上			
		II	20 単位以上			
	創作・評論コース	必修科目	講義	10 単位		
			卒業論文・卒業制作	4 単位		
			コース必修	4 単位		
			演習	8 単位		
	選択必修科目	I（コース共通）	12 単位以上			
		II	20 単位以上			
	コース共通選択科目					
自由選択科目		10 単位を上限として卒業所要単位に加算する。				

文芸学部卒業所要単位数	124 単位以上
-------------	----------

卒業要件の20単位を超えて修得した共通教養科目の単位、卒業要件の14単位を超えて修得した外国語科目の単位は、卒業所要単位124単位には算入されません。共通教養科目20単位、外国語科目14単位、専門科目90単位は、それぞれの科目群内で修得するようにして下さい。
授業形態が「メディア授業」とされている授業で修得した単位の内、卒業要件として算定される単位数の上限は60単位です。60単位を超えた場合は、超過分の単位は卒業要件に算入されません。

進級要件

次学年に進級するためには、当該学年に1年以上在学した上で、以下の進級要件を満たしている必要があります。この要件を満たさない場合は、留年となります。

1 学年→2 学年	2 学年→3 学年	3 学年→4 学年
「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から合計20単位以上を修得していること。	「基礎演習」(2単位)及び「文学概論1・2」(各2単位)を含んで、「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から合計46単位以上を修得していること。	「日本文学史1・2」(各2単位)及び3学年配当の「演習1A・1B」(自コースの演習科目合計4単位)を含んで、「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から合計92単位以上を修得していること。

言語・文学コース

#印はキャップ制除外科目

区分		授 業 科 目	配当学年	単位数	修得すべき単位数		
必修科目	コース共通	基礎演習	1	2	14 単位		
		文学概論 1	1	2			
	文学概論 2	1	2				
日本文学史 1	2	2					
日本文学史 2	2	2					
卒業論文・卒業制作	4	4					
必修科目	コース必修	古典籍の読み方	2	2	4 単位		
		アカデミック・リテラシー	2	2			
必修科目	演習	言語・文学演習 1 A	3	2	8 単位		
		言語・文学演習 1 B	3	2			
		言語・文学演習 2 A	4	2			
		言語・文学演習 2 B	4	2			
選択必修科目	I (コース共通)	言語・文学系 (A群)	※ 文学のジャンル 1	1	2	言語・文学系 (A群) と創作・評論系 (B群) を合わせた中から 12 単位以上	
			※ 文学のスタイル 1	1	2		
			古典への招待 1	1	2		
			古典への招待 2	1	2		
		作家論	1	2			
		作品論	1	2			
		※ 翻訳文学	1	2			
		※ 日本語学概論	1	2			
	※ 日本語文法	1	2				
	創作・評論系 (B群)	※ 創作基礎 1	1	2			
		※ 創作基礎 2	1	2			
		※ 批評理論 1	1	2			
		※ 批評理論 2	1	2			
		芸術と文学	1	2			
		映像文化論	1	2			
		メディア論	1	2			
		翻訳基礎	1	2			
※ 編集基礎		1	2				
必修科目	II	文学のジャンル 2	2	2	この中から 20 単位以上		
		文学のスタイル 2	2	2			
		上代・中古作品講読	2	2			
		中世・近世作品講読	2	2			
		近代文学講読	2	2			
		現代文学講読	2	2			
		※ 上代の思想と表現	2	2			
		※ 中古の思想と表現	2	2			
		※ 中世の思想と表現	2	2			
		※ 近世の思想と表現	2	2			
		近代表現史論	2	2			
		現代表現史論	2	2			
		※ 日本語史論 1	2	2			
		※ 日本語史論 2	2	2			
		※ 社会言語学 1	2	2			
		※ 社会言語学 2	2	2			
		テクストクリティーク	2	2			
日本語研究 1	3	2					
日本語研究 2	3	2					
文献観光資源学	3	2					
読むための方法	3	2					

必修科目・
選択必修科目・
コース共通
選択科目の
中から 80
単位以上

全専門科目
の中から
90 単位
以上

区分	授 業 科 目	配当学年	単位数	修得すべき単位数
コ ー ス 共 通 選 択 科 目	※ 映像・芸術基礎 1	1	2	必修科目・ 選択必修 科目・コー ス共通選 択科目の 中から80 単位以上
	※ 映像・芸術基礎 2	1	2	
	※ 古典と現代 1	1	2	
	※ 古典と現代 2	1	2	
	文芸特殊講義 1	1	2	
	文芸特殊講義 2	1	2	
	※ 日本語音声学	1	2	
	※ 日本語教育文法	1	2	
	※ 日本語教授法 1	1	2	
	※ 日本語教授法 2	1	2	
	※ 映像・芸術論 1	2	2	
	※ 映像・芸術論 2	2	2	
	※ 演劇・芸能論 1	2	2	
	※ 演劇・芸能論 2	2	2	
	文芸特殊講義 3	2	2	
	文芸特殊講義 4	2	2	
	※ 書誌学 1	2	2	
	※ 書誌学 2	2	2	
	書道	2	2	
	※ 日本語特殊講義 1	2	2	
	※ 日本語特殊講義 2	2	2	
	※ 手話学 1	2	2	
	※ 手話学 2	2	2	
	※ 日本語教授法 3	2	2	
	※ 日本語教授法 4	2	2	
	文芸特殊講義 5	3	2	
	文芸特殊講義 6	3	2	
	※ 漢文学 1	3	2	
	※ 漢文学 2	3	2	
	文芸特殊講義 7	4	2	
	文芸特殊講義 8	4	2	
	※ 関西文化研究	2	2	
	※ 大阪文芸研究	2	2	
	※ 創作技法 1	2	2	
	※ 創作技法 2	2	2	
	創作理論 1	2	2	
	創作理論 2	2	2	
	※ 文芸批評 1	2	2	
	※ 文芸批評 2	2	2	
	現代思想 1	2	2	
現代思想 2	2	2		
※ 映像と文学 1	2	2		
※ 映像と文学 2	2	2		
比較文学	2	2		
※ 推理小説論	2	2		
マスメディア論	2	2		
ジャーナリズム論	2	2		
※ 編集技法	2	2		
※ 編集・出版論	2	2		
自由 選択 科目	留学プログラムⅠ	1	2 [#]	10単位を 上限とし て卒業所 要単位に 加算する。
	留学プログラムⅡ	2	2 [#]	
	インターンシップ	3	2 [#]	
	他学科・専攻の※印科目			

創作・評論コース

#印はキャップ制除外科目

区分		授 業 科 目	配当学年	単位数	修得すべき単位数		
必修科目	コース共通	基礎演習	1	2	14 単位	必修科目・ 選択必修 科目・コース 共通選 択科目の 中から 80 単位以上	全専門科 目の中か ら 90 単 位以上
		文学概論 1	1	2			
	文学概論 2	1	2				
日本文学史 1	2	2					
日本文学史 2	2	2					
卒業論文・卒業制作	4	4					
必修コース	クリエイティブ・ライティング 1	2	2	2	4 単位		
	クリエイティブ・ライティング 2	2	2	2			
演習	演習	創作・評論演習 1 A	3	2	8 単位		
		創作・評論演習 1 B	3	2			
創作・評論演習 2 A		4	2				
創作・評論演習 2 B		4	2				
選択必修科目	I (コース共通)	※ 文学のジャンル 1	1	2	言語・文学系 (A 群) と創作・評 論系 (B 群) を 合わせた中から 12 単位以上		
		※ 文学のスタイル 1	1	2			
		古典への招待 1	1	2			
		古典への招待 2	1	2			
		作家論	1	2			
		作品論	1	2			
	※ 翻訳文学	1	2				
	※ 日本語学概論	1	2				
	※ 日本語文法	1	2				
	II	※ 創作基礎 1	1	2			
		※ 創作基礎 2	1	2			
		※ 批評理論 1	1	2			
※ 批評理論 2		1	2				
芸術と文学		1	2				
映像文化論		1	2				
メディア論	1	2					
※ 翻訳基礎	1	2					
※ 編集基礎	1	2					
II	※ 創作技法 1	2	2	この中から 20 単 位以上			
	※ 創作技法 2	2	2				
	創作理論 1	2	2				
	創作理論 2	2	2				
	※ 文芸批評 1	2	2				
	※ 文芸批評 2	2	2				
	現代思想 1	2	2				
	現代思想 2	2	2				
	※ 映像と文学 1	2	2				
	※ 映像と文学 2	2	2				
	比較文学	2	2				
	※ 推理小説論	2	2				
	マスメディア論	2	2				
	ジャーナリズム論	2	2				
	※ 編集技法	2	2				
※ 編集・出版論	2	2					
評論研究	3	2					
編集研究	3	2					

区分	授 業 科 目	配当学年	単位数	修得すべき単位数	
コ ー ス 共 通 選 択 科 目	※ 映像・芸術基礎 1	1	2	必修科目・ 選択必修 科目・コー ス共通選 択科目の 中から80 単位以上	全専門科 目の中か ら90単位 以上
	※ 映像・芸術基礎 2	1	2		
	※ 古典と現代 1	1	2		
	※ 古典と現代 2	1	2		
	文芸特殊講義 1	1	2		
	文芸特殊講義 2	1	2		
	※ 日本語音声学	1	2		
	※ 日本語教育文法	1	2		
	※ 日本語教授法 1	1	2		
	※ 日本語教授法 2	1	2		
	※ 映像・芸術論 1	2	2		
	※ 映像・芸術論 2	2	2		
	※ 演劇・芸能論 1	2	2		
	※ 演劇・芸能論 2	2	2		
	文芸特殊講義 3	2	2		
	文芸特殊講義 4	2	2		
	※ 書誌学 1	2	2		
	※ 書誌学 2	2	2		
	書道	2	2		
	※ 日本語特殊講義 1	2	2		
	※ 日本語特殊講義 2	2	2		
	※ 手話学 1	2	2		
	※ 手話学 2	2	2		
	※ 日本語教授法 3	2	2		
	※ 日本語教授法 4	2	2		
	文芸特殊講義 5	3	2		
	文芸特殊講義 6	3	2		
	※ 漢文学 1	3	2		
	※ 漢文学 2	3	2		
	文芸特殊講義 7	4	2		
	文芸特殊講義 8	4	2		
	※ 関西文化研究	2	2		
	※ 大阪文芸研究	2	2		
	文学のジャンル 2	2	2		
	文学のスタイル 2	2	2		
	上代・中古作品講読	2	2		
中世・近世作品講読	2	2			
近代文学講読	2	2			
現代文学講読	2	2			
※ 上代の思想と表現	2	2			
※ 中古の思想と表現	2	2			
※ 中世の思想と表現	2	2			
※ 近世の思想と表現	2	2			
近代表現史論	2	2			
現代表現史論	2	2			
※ 日本語史論 1	2	2			
※ 日本語史論 2	2	2			
※ 社会言語学 1	2	2			
※ 社会言語学 2	2	2			
テクストクリティーク	2	2			
自由 選択 科目	留学プログラムⅠ 留学プログラムⅡ インターンシップ 他学科・専攻の※印科目	1 2 3	2 [#] 2 [#] 2 [#]	10単位を 上限とし て卒業所 要単位に 加算する。	

履修上の注意

1. 1 学年生は、1 学年配当の必修科目 [コース共通] (合計 6 単位)、1 学年配当の選択必修科目 [I] [コース共通] (合計 12 単位以上)、1 学年配当の自由選択科目を履修する。

ただし、これらの科目の単位を 1 学年のうちにすべて修得し終えていなくても 2 学年に進級できる。

2. 2 学年生は、2 学年配当の必修科目 [コース共通] (合計 4 単位)、それぞれのコースの 2 学年配当 [コース必修] (合計 4 単位)、それぞれのコースの 2 学年配当の選択必修科目 [II] (3 学年配当と合わせて合計 20 単位以上)、及び 2 学年配当の自由選択科目を履修する。

ただし、進級要件を満たしていれば、これらの科目の単位を 2 学年のうちにすべて修得し終えていなくても 3 学年に進級できる。なお、他コースの選択必修科目 [II] は一部、コース共通選択科目として履修することができる。

3. 3 学年生は、それぞれのコースの 3 学年配当の選択必修科目 [II] (2 学年配当と合わせて合計 20 単位以上)、3 学年配当の [演習] (合計 4 単位)、及び 3 学年配当の自由選択科目を履修する。

ただし、進級要件を満たしていれば、これらの科目の単位を 3 学年のうちにすべて修得し終えていなくても 4 学年に進級できる。

4. 4 学年生は、4 学年配当の必修科目 [コース共通] (「卒業論文・卒業制作」4 単位) と、それぞれのコースの 4 学年配当の [演習] (合計 4 単位)、及び 4 学年配当の自由選択科目を履修する。

履修系統図について

カリキュラムツリー等の履修系統図は、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示するものです。

カリキュラムツリーを参照することで、各科目の位置づけや科目同士の関連性を理解し、体系的な履修計画を立てることができます。履修登録時には必ず参照し、各科目の教育課程における位置づけを理解したうえで履修計画を立ててください。

詳しくは下記の web サイトもしくは QR コードをご覧ください。

日本文学専攻カリキュラム

<https://www.kindai.ac.jp/lit-art-cul/department/literature/japanese/curriculum/>



文学科英語英米文学専攻 卒業・進級・履修要件と授業科目表

卒業要件

卒業するためには、4年間以上在学（ただし、各学年1年以上在学すること）し、以下の授業科目表の単位数以上を修得していること。

授 業 科 目			修得すべき単位数		
共通教養科目・外国語科目	共通教養科目	人間性・社会性科目群 (自校学習除く)	2 単位以上	20 単位以上 (近大ゼミ、コンピュータ実習1を含む)	24 単位以上
		地域性・国際性科目群	2 単位以上		
		課題設定・問題解決科目群	4 単位以上		
		スポーツ・表現活動科目群	2 単位以上		
	第二外国語	4 単位以上			
専門科目	必修科目		66 単位		98 単位以上 100 単位以上
	選択必修科目	A	18 単位以上		
		B	8 単位以上		
	選択科目		6 単位以上		
	自由選択科目		2 単位を上限として卒業所要単位に加算する。		

文芸学部卒業所要単位数	124 単位以上
-------------	----------

卒業要件の 20 単位を超えて修得した共通教養科目の単位、卒業要件の 4 単位を超えて修得した第二外国語科目の単位は、卒業所要単位 124 単位には算入されません。共通教養科目 20 単位、第二外国語科目 4 単位、専門科目 100 単位は、それぞれの科目群内で修得するようにして下さい。
授業形態が「メディア授業」とされている授業で修得した単位の内、卒業要件として算定される単位数の上限は 60 単位です。 60 単位を超えた場合は、超過分の単位は卒業要件に算入されません。

進級要件

次学年に進級するためには、当該学年に1年以上在学した上で、以下の進級要件を満たしている必要があります。この要件を満たさない場合は、留年となります。

1 学年→2 学年	2 学年→3 学年	3 学年→4 学年
「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から、合計 24 単位以上修得していること。	専門科目のうち「必修科目」及び「選択必修科目」の中から 30 単位以上修得し、「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から合計 56 単位以上修得していること。	専門科目 60 単位以上を含んで、「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から合計 92 単位以上修得していること。

#印はキャップ制除外科目

区分	授 業 科 目	配当学年	単位数	修得すべき単位数		
必 修 科 目	Speaking I A	1	2	66 単位	必修科目・ 選択必修 科目・選択 科目の中から 98 単位 以上	全専門科 目の中から 100 単位以 上
	Speaking I B	1	2			
	Listening I A	1	2			
	Listening I B	1	2			
	Tutorial I	1	2			
	Reading and Writing A	1	2			
	Reading and Writing B	1	2			
	American Literary History A	1	2			
	American Literary History B	1	2			
	Presentation Skills A	2	1			
	Presentation Skills B	2	1			
	Speaking II A	2	2			
	Speaking II B	2	2			
	Listening II A	2	2			
	Listening II B	2	2			
	Basic Academic Writing A	2	1			
	Basic Academic Writing B	2	1			
	Tutorial II A	2	2			
	Tutorial II B	2	2			
	English Literary History A	2	2			
	English Literary History B	2	2			
	English Communication I A	3	2			
	English Communication I B	3	2			
	Academic Writing A	3	2			
	Academic Writing B	3	2			
	Seminar I A	3	2			
	Seminar I B	3	2			
	Reading Academic English I A	3	2			
Reading Academic English I B	3	2				
Seminar II A	4	2				
Seminar II B	4	2				
Reading Academic English II A	4	2				
Reading Academic English II B	4	2				
Graduate Study	4	4				
選 択 必 修 科 目	A	Children's Literature A	1	2	この中から 18 単 位以上	
		Children's Literature B	1	2		
		Anglo Fiction Studies A	1	2		
		Anglo Fiction Studies B	1	2		
		American Fiction Studies	1	2		
		Literary Translation I A	1	2		
		Literary Translation I B	1	2		
		※ English Linguistics A	1	2		
		※ English Linguistics B	1	2		
		Study Abroad Programme	1	2 [#]		
		Comparative Literature A	2	2		
		Comparative Literature B	2	2		
		Language and Literature A	2	2		
		Language and Literature B	2	2		
		English Education A	2	2		
		English Education B	2	2		
		Literary Translation II A	2	2		
Literary Translation II B	2	2				

区分		授 業 科 目	配当学年	単位数	修得すべき単位数		
選 択 必 修 科 目	B	Drama Studies A	3	2	この中から8単 位以上	必修科目・ 選 択 必 修 科目・選 択 科目の中か ら98単位 以上	全 専 門 科 目 の 中 か ら 100 単 位 以 上
		Drama Studies B	3	2			
		Poetry Studies A	3	2			
		Poetry Studies B	3	2			
		Culture and Literature	3	2			
		Early Childhood English Education A	3	2			
		Early Childhood English Education B	3	2			
選 択 科 目	※ Film and Literature	Practical English A	1	2	この中から6単 位以上		
		Practical English B	1	2			
		TOEIC Advanced A	1	2			
		TOEIC Advanced B	1	2			
自 由 選 択 科 目	Internship 他学科・専攻の※印科目	3	2 [#]	2単位を上限として卒業所要 単位に加算する。			

履修上の注意

◎英語英米文学専攻では、学部が主催する留学プログラムへの参加を推奨している。約半年間留学し、所定の単位を修得するかもしれない、本学において所定の単位を修得しなければならない。

1. 「第一外国語(英語)」の単位については、コース専門科目を充当するため修得する必要がないので注意すること。
2. 1 学年生は、1 学年配当の必修科目 (18 単位) を履修し、さらに1 学年配当の選択必修科目及び1 学年配当の選択科目、自由選択科目から選択して、履修する。なお、1 学年から2 学年への進級には進級要件があるので、要件を満たすよう履修すること。ただし、進級要件を満たしていれば、上に挙げた科目の単位を1 学年にすべて修得し終えていなくても2 学年に進級できる。
3. 2 学年生は、2 学年配当の必修科目 (20 単位) を履修し、さらに2 学年配当の選択必修科目、選択科目、自由選択科目から選択して、履修する。なお、2 学年から3 学年への進級には進級要件があるので、要件を満たすよう履修すること。ただし、進級要件を満たしていれば、上に挙げた科目の単位をすべて修得していなくても3 学年に進級できる。
4. 3 学年生は、3 学年配当の必修科目 (16 単位) を履修し、さらに3 学年配当の選択必修科目、選択科目、自由選択科目から選択して、履修する。なお、「Seminar I A・B」は、いわゆる「ゼミ」と呼ばれる科目であり、一つを選択し、4 学年に履修する「Seminar II A・B」と合わせて、2 年間にわたって同一分野から履修することになる。どの分野のゼミに所属するかは、2 学年に行うゼミ説明会とアンケートの結果によって決定される。
5. 4 学年生は、4 学年配当の必修科目 (「Graduate Study」を含む12 単位) を履修し、さらに選択必修科目及び選択科目、自由選択科目から選択して、履修する。
6. 日本語教員を志望する学生は、日本語教員養成課程があるので、該当する項目 (29 ページ) を参照のこと。

履修系統図について

カリキュラムツリー等の履修系統図は、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示するものです。

カリキュラムツリーを参照することで、各科目の位置づけや科目同士の関連性を理解し、体系的な履修計画を立てることができます。履修登録時には必ず参照し、各科目の教育課程における位置づけを理解したうえで履修計画を立ててください。

詳しくは下記の web サイトもしくは QR コードをご覧ください。

英語英米文学専攻カリキュラム

<https://www.kindai.ac.jp/lit-art-cul/department/literature/english/curriculum/>



芸術学科舞台芸術専攻 卒業・進級・履修要件と授業科目表

卒業要件

卒業するためには、4年間以上在学（ただし、各学年1年以上在学すること）し、以下の授業科目表の単位数以上を修得していること。

授 業 科 目			修得すべき単位数		
共通教養科目・外国語科目	共通教養科目	人間性・社会性科目群 (自校学習除く)	2 単位以上	20 単位以上 (近大ゼミ、コンピュータ実習1を含む)	34 単位以上
		地域性・国際性科目群	2 単位以上		
		課題設定・問題解決科目群	4 単位以上		
		スポーツ・表現活動科目群	2 単位以上		
	第一外国語（英語）（必修8 単位含む）		10 単位以上	14 単位以上	
	第二外国語				
専門科目	必修科目		4 単位	80 単位以上	90 単位以上
	指定必修科目Ⅰ	基礎科目Ⅰ	2 単位以上		
		基礎科目Ⅱ	4 単位以上		
	指定必修科目Ⅱ		8 単位以上		
	指定必修科目Ⅲ		4 単位以上		
	指定必修科目Ⅳ		8 単位以上		
	専攻選択科目				
自由選択科目		10 単位を上限として卒業所要単位数に加算する。			

文芸学部卒業所要単位数	124 単位以上
-------------	----------

卒業要件の 20 単位を超えて修得した共通教養科目の単位、卒業要件の 14 単位を超えて修得した外国語科目の単位は、卒業所要単位数 124 単位には算入されません。共通教養科目 20 単位、外国語科目 14 単位、専門科目 90 単位は、それぞれの科目群内で修得するようにして下さい。
 授業形態が「メディア授業」とされている授業で修得した単位数の内、卒業要件として算定される単位数の上限は 60 単位です。60 単位を超えた場合は、超過分の単位は卒業要件に算入されません。

進級要件

次学年に進級するためには、当該学年に1年以上在学した上で、以下の進級要件を満たしている必要があります。この要件を満たさない場合は、留年となります。

1 学年→2 学年	2 学年→3 学年	3 学年→4 学年
「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から、合計 20 単位以上修得していること。	「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から、合計 56 単位以上修得していること。	「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から、合計 92 単位以上修得していること。

#印はキャップ制除外科目

区分	授 業 科 目	配当学年	単位数	修得すべき単位数		
必修科目	※ 演劇概論 舞台芸術特別演習Ⅳ	1 4	2 2	4単位		
指定必修科目Ⅰ	基礎科目Ⅰ 身体と発声A 身体と発声B 舞台表現基礎実習A 舞台表現基礎実習B 舞踊表現基礎実習ⅠA 舞踊表現基礎実習ⅠB	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	この中から2単位以上		
	基礎科目Ⅱ 日本作家作品論A 日本作家作品論B ※ 日本芸能概論A ※ 日本芸能概論B ※ 戯曲の読み方 ※ 戯曲創作研究1	1 1 1 1 1 1	2 2 2 2 2 2	この中から4単位以上		
指定必修科目Ⅱ	演劇創作実習1A 演劇創作実習1B 演劇創作実習2A 演劇創作実習2B 演劇創作実習3 舞踊創作実習1 舞踊創作実習2 身体表現実習 ※ 戯曲創作研究2A ※ 戯曲創作研究2B ※ 伝統芸能作品研究A ※ 伝統芸能作品研究B パフォーマンス研究A パフォーマンス研究B	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2	この中から8単位以上		
指定必修科目Ⅲ	演劇創作演習1A 演劇創作演習1B 演劇創作演習2 演劇創作演習3 舞踊創作演習1 舞踊創作演習2 身体表現演習 舞踊表現演習 戯曲創作研究3A 戯曲創作研究3B 舞台芸術研究1 舞台芸術研究2 舞台芸術研究3 ※ TOP論A ※ TOP論B	3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	この中から4単位以上		
指定必修科目Ⅳ	卒業研究ⅠA 卒業研究ⅠB 演劇卒業公演 卒業研究ⅡA 卒業研究ⅡB 舞踊卒業公演 卒業研究ⅢA 卒業研究ⅢB 卒業戯曲創作 卒業研究ⅣA 卒業研究ⅣB 卒業論文	[卒業研究①] [卒業研究②] [卒業研究③] [卒業研究④]	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	[卒業研究①]~[卒業研究④]の中から1分野8単位以上		

必修科目・
指定必修
科目・専
攻選択科
目の中か
ら80単位
以上

全専門科
目の中か
ら90単位
以上

区分	授 業 科 目	配当学年	単位数	修得すべき単位数		
専 攻 選 択 科 目	文章表現	1	2			
	文章創作	1	2			
	※ アーツマネージメント論A	1	2			
	※ アーツマネージメント論B	1	2			
	舞台技術基礎実習ⅠⅠ	1	1			
	舞台技術基礎実習ⅠⅡ	1	1			
	舞台技術基礎実習ⅡⅠ	1	1			
	舞台技術基礎実習ⅡⅡ	1	1			
	舞台芸術特別実習Ⅰ	1	1			
	舞台芸術特別演習Ⅰ	1	2			
	※ 舞台芸術特論Ⅰ	1	2			
	舞踊表現基礎実習ⅡA	2	1			
	舞踊表現基礎実習ⅡB	2	1			
	※ 戯曲論A	2	2			
	※ 戯曲論B	2	2			
	演出・演技論A	2	2			
	演出・演技論B	2	2			
	舞台照明実習1	2	1			
	舞台照明実習2	2	1			
	音響効果実習1	2	1			
	音響効果実習2	2	1			
	舞台美術実習1	2	1			
	舞台美術実習2	2	1			
	映像表現実習A	2	1			
	映像表現実習B	2	1			
	伝統芸能実習ⅠA	2	1			
	伝統芸能実習ⅠB	2	1			
	伝統芸能実習ⅡA	2	1			
	伝統芸能実習ⅡB	2	1			
	舞台衣裳実習1	2	1			
	舞台衣裳実習2	2	1			
	音楽実習Ⅰ	2	1			
	※ 世界舞踊史A	2	2			
	※ 世界舞踊史B	2	2			
	※ 世界映画史A	2	2			
	※ 世界映画史B	2	2			
	※ 舞台芸術批評論A	2	2			
	※ 舞台芸術批評論B	2	2			
	舞台芸術特別実習Ⅱ	2	1			
	舞台芸術特別演習Ⅱ	2	2			
	※ 舞台芸術特論Ⅱ	2	2			
	音楽実習Ⅱ	3	1			
映像表現演習	3	2				
舞台美術実習3	3	1				
舞台美術実習4	3	1				
※ 日本演劇史A	3	2				
※ 日本演劇史B	3	2				
※ 世界演劇史A	3	2				
※ 世界演劇史B	3	2				
舞台芸術特別実習Ⅲ	3	1				
舞台芸術特別演習Ⅲ	3	2				
※ 舞台芸術特論Ⅲ	3	2				
舞台芸術特別実習Ⅳ	4	1				
※ 舞台芸術特論Ⅳ	4	2				
日本語学概論	1	2				
日本語史論1	2	2				
日本語史論2	2	2				
書道	2	2				

必修科目・
指定必修
科目・専
攻選択科
目の中か
ら80単位
以上

全専門科
目の中か
ら90単位
以上

区分	授 業 科 目	配当学年	単位数	修得すべき単位数	
自由 選 択 科 目	留学プログラムⅠ	1	2 [#]	10 単位を上限として卒業所要単位 に加算する。	全専門科 目の中か ら 90 単 位以上
	留学プログラムⅡ	2	2 [#]		
	インターンシップ	3	2 [#]		
	他学科・専攻の※印科目				

履修上の注意

- 卒業までに専門科目で必ず修得しなければならない単位数は、90 単位以上である。
この内、80 単位以上は必修科目・指定必修科目・専攻選択科目から修得し、且つ 4 単位の「卒業研究」と 4 単位の卒業公演（演劇／舞踊）、卒業戯曲、卒業論文のいずれかを、①～④の中から 1 分野必ず修得すること。
- 2 学年生より〈系〉に基づいた履修をすること。
別に配付する〈「卒業研究のために必要な科目」表〉を参照すること。
- 必修科目・指定必修科目・専攻選択科目の履修方法
 - ①必修科目「演劇概論」「舞台芸術特別演習Ⅳ」は必ず修得しなければならない。
 - ②指定必修科目Ⅰの、基礎科目Ⅰから 2 単位以上、基礎科目Ⅱから 4 単位以上修得しなければならない。
 - ③指定必修科目Ⅱから 8 単位以上、指定必修科目Ⅲから 4 単位以上、指定必修科目Ⅳから 8 単位以上修得しなければならない。
 - ④通年の履修（A・B）を前提にする科目がある。
 - ⑤実習・演習科目で、1 と 2、または 1 と 2 と 3、または 3 と 4 の両方を履修しなければならない科目がある。
1 年次 「舞台技術基礎実習Ⅰ」1 と 2、「舞台技術基礎実習Ⅱ」1 と 2
2 年次 「演劇創作実習」1 A と 2 A、「演劇創作実習」1 B と 2 B と 3、「舞踊創作実習」1 と 2、「舞台照明実習」1 と 2、「音響効果実習」1 と 2、「舞台美術実習」1 と 2、「舞台衣裳実習」1 と 2
3 年次 「舞台美術実習」3 と 4、「演劇創作演習」1 B と 2 と 3、「舞踊創作演習」1 と 2
上記以外にも、複数の科目を続けて履修しなければならない場合があります。その場合はシラバスに記載されます。
- 自由選択科目として、文芸学部他学科・専攻の※印の科目、また、留学プログラムⅠ・Ⅱ、インターンシップ、単位互換科目などが履修できる。I 学修要項 8.(1)-③ (p17) を参照。
- 専攻選択科目「書道」は教職を履修する者に限り履修できる。

※教員課程履修者は、『教職課程履修要項』を必ず参照すること。

履修系統図について

カリキュラムツリー等の履修系統図は、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示するものです。

カリキュラムツリーを参照することで、各科目の位置づけや科目同士の関連性を理解し、体系的な履修計画を立てることができます。履修登録時には必ず参照し、各科目の教育課程における位置づけを理解したうえで履修計画を立ててください。

詳しくは下記の web サイトもしくは QR コードをご覧ください。

舞台芸術専攻カリキュラム

<https://www.kindai.ac.jp/lit-art-cul/department/art/performing/curriculum/>



芸術学科造形芸術専攻 卒業・進級・履修要件と授業科目表

卒業要件

卒業するためには、4年間以上在学（ただし、各学年1年以上在学すること）し、以下の授業科目表の単位数以上を修得していること。

授 業 科 目			修得すべき単位数		
共通教養科目・外国語科目	共通教養科目	人間性・社会性科目群 (自校学習除く)	2 単位以上	20 単位以上 (近大ゼミ、コンピュータ実習1を含む)	34 単位以上
		地域性・国際性科目群	2 単位以上		
		課題設定・問題解決科目群	4 単位以上		
		スポーツ・表現活動科目群	2 単位以上		
	第一外国語（英語）（必修8 単位含む）		10 単位以上	14 単位以上	
	第二外国語				
専門科目	必修科目	卒業制作研究	4 単位	36 単位	80 単位以上 90 単位以上
		ゼミナール	32 単位		
	選択必修科目Ⅰ		8 単位以上	38 単位以上	
	選択必修科目Ⅱ		6 単位以上		
	選択必修科目Ⅲ		10 単位以上		
	選択必修科目Ⅳ		4 単位以上		
	選択必修科目Ⅴ		4 単位以上		
	選択必修科目Ⅵ		6 単位以上		
自由選択科目		10 単位を上限として卒業所要単位数に加算する。			

文芸学部卒業所要単位数	124 単位以上
-------------	----------

卒業要件の 20 単位を超えて修得した共通教養科目の単位、卒業要件の 14 単位を超えて修得した外国語科目の単位は、卒業所要単位 124 単位には算入されません。共通教養科目 20 単位、外国語科目 14 単位、専門科目 90 単位は、それぞれの科目群内で修得するようにして下さい。
授業形態が「メディア授業」とされている授業で修得した単位数の内、卒業要件として算定される単位数の上限は 60 単位です。 60 単位を超えた場合は、超過分の単位は卒業要件に算入されません。

進級要件

次学年に進級するためには、当該学年に1年以上在学した上で、以下の進級要件を満たしている必要があります。この要件を満たさない場合は、留年となります。

1 学年→2 学年	2 学年→3 学年	3 学年→4 学年
「ゼミナールⅠA・ⅠB」を含んで、「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から合計 22 単位以上を修得していること。	「ゼミナールⅡA・ⅡB」を含んで、「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から合計 58 単位以上を修得していること。	「ゼミナールⅢA・ⅢB」を含んで、「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から合計 92 単位以上を修得していること。

#印はキャップ制除外科目

区分	授 業 科 目	配当学年	単位数	修得すべき単位数		
必 修 科 目	卒業制作研究	4	4	4 単位		
	ゼミナールⅠA	1	4	□	1 学年	8 単位必修
	ゼミナールⅠB	1	4			
	ゼミナールⅡA	2	4	□	2 学年	8 単位必修
	ゼミナールⅡB	2	4			
	ゼミナールⅢA	3	4	□	3 学年	8 単位必修
	ゼミナールⅢB	3	4			
	ゼミナールⅣA	4	4	□	4 学年	8 単位必修
ゼミナールⅣB	4	4				
選 択 必 修 科 目	※ 日本美術史A	1	2	この中から 8 単位以上		
	※ 日本美術史B	1	2			
	※ 西洋美術史A	1	2			
	※ 西洋美術史B	1	2			
	※ 現代美術論A	1	2			
	※ 現代美術論B	1	2			
	※ アジア美術史	2	2			
	選択必修科目Ⅰ					
	造形集中演習Ⅰ	2	2	この中から 6 単位以上		
	造形集中演習Ⅱ	2	2			
	造形集中演習Ⅲ	3	2			
	造形基礎演習ⅠA	1	2			
	造形基礎演習ⅠB	1	2			
	造形基礎演習ⅡA	1	2			
	造形基礎演習ⅡB	1	2			
	選択必修科目Ⅱ					
	写真論	1	2	この中から 10 単位以上		
	色彩論	1	2			
	デザイン論A	1	2			
	デザイン論B	1	2			
※ 工芸論A	2	2				
※ 工芸論B	2	2				
素材と技法Ⅰ	2	2				
素材と技法Ⅱ	2	2				
選択必修科目Ⅲ						
コンピュータグラフィックス演習ⅠA	2	2	この中から 4 単位以上			
コンピュータグラフィックス演習ⅠB	2	2				
コンピュータグラフィックス演習ⅡA	3	2				
コンピュータグラフィックス演習ⅡB	3	2				
選択必修科目Ⅳ						

必修科目・
選択必修
科目の中
から 80 単
位以上

全専門科
目の中か
ら 90 単位
以上

#印はキャップ制除外科目

区分	授 業 科 目	配当学年	単位数	修得すべき単位数			
選 択 必 修 科 目	選択必修科目Ⅴ フィールドワークA フィールドワークB 表現論ⅠA 表現論ⅠB 表現論ⅡA 表現論ⅡB	2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2	この中から4単位以上		必修科目・ 選択必修 科目の中 から80単 位以上	全専門科 目の中か ら90単位 以上
	選択必修科目Ⅵ 造形プロジェクト演習ⅠA 造形プロジェクト演習ⅠB 造形プロジェクト演習ⅡA 造形プロジェクト演習ⅡB 造形プロジェクト演習ⅢA 造形プロジェクト演習ⅢB 造形特別プログラム ※美術研究ⅠA ※美術研究ⅠB	3 3 3 3 3 3 3 3 3	2 2 2 2 2 2 2 2 2	この中から6単位以上			
自 由 選 択 科 目	留学プログラムⅠ 留学プログラムⅡ インターンシップ 他学科・専攻の※印科目	1 2 3	2 [#] 2 [#] 2 [#]	10単位を上限として卒業所要単位に 加算する。			

履修上の注意

1. 原則として各科目のAは前期、Bは後期を意味する。
2. 必修科目はA、Bともに履修し、修得しなければならない。
3. ゼミナールの履修方法
 - i. 1 学年：〈ゼミナールⅠ〉を必修とする。
〈ゼミナールⅠ〉では4つのゼミナールが設けられており、学籍番号をもとに配属と履修順が決められている。
前期2つ、後期2つの異なるゼミナールを履修し、計8単位を修得すること。
 - ii. 2 学年：〈ゼミナールⅡ〉を必修とする。
《平面・メディア表現領域》《立体・メディア表現領域》のいずれかを選択し、その領域に設けられた2つのゼミナールを選択し、それぞれA、Bともに履修して、計8単位を修得すること。
 - iii. 3 学年・4 学年：3 学年は〈ゼミナールⅢ〉、4 学年は〈ゼミナールⅣ〉を必修とする。
2 学年次に選んだ領域から1つのゼミナールを選択し、それぞれA、Bともに履修して、計16単位を修得すること。
4. 選択必修科目において、履修学生数が所定の定員数を超え、授業運用に支障をきたすと判断した場合、該当する授業の初回に履修の可否を抽選によって決める。またその場合、高学年の学生を優先することもある。

履修系統図について

カリキュラムツリー等の履修系統図は、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示するものです。

カリキュラムツリーを参照することで、各科目の位置づけや科目同士の関連性を理解し、体系的な履修計画を立てることができます。履修登録時には必ず参照し、各科目の教育課程における位置づけを理解したうえで履修計画を立ててください。

詳しくは下記の web サイトもしくは QR コードをご覧ください。

造形芸術専攻カリキュラム

<https://www.kindai.ac.jp/lit-art-cul/department/art/molding/curriculum/>



文化・歴史学科 卒業・進級・履修要件と授業科目表

卒業要件

卒業するためには、4年間以上在学（ただし、各学年1年以上在学すること）し、以下の授業科目表の単位数以上を修得していること。

授 業 科 目			修得すべき単位数		
共通教養科目・外国語科目	共通教養科目	人間性・社会性科目群 (自校学習除く)	2 単位以上	20 単位以上 (近大ゼミ、コンピュータ実習1を含む)	34 単位以上
		地域性・国際性科目群	2 単位以上		
		課題設定・問題解決科目群	4 単位以上		
		スポーツ・表現活動科目群	2 単位以上		
	第一外国語（英語）（必修8 単位含む）		10 単位以上	14 単位以上	
	第二外国語				
専門科目	必修科目	基礎研究	2 単位	14 単位	80 単位以上 90 単位以上
		演習	8 単位		
		卒業論文	4 単位		
	選択必修科目	選択必修科目Ⅰ	2 単位以上		
		選択必修科目Ⅱ	4 単位以上		
		選択必修科目Ⅲ・Ⅳ	32 単位以上		
	学科選択科目				
	自由選択科目		10 単位を上限として卒業所要単位数に加算する。		

文芸学部卒業所要単位数	124 単位以上
-------------	----------

卒業要件の 20 単位を超えて修得した共通教養科目の単位、卒業要件の 14 単位を超えて修得した外国語科目の単位は、卒業所要単位数 124 単位には算入されません。共通教養科目 20 単位、外国語科目 14 単位、専門科目 90 単位は、それぞれの科目群内で修得するようにして下さい。
授業形態が「メディア授業」とされている授業で修得した単位数の内、卒業要件として算定される単位数の上限は 60 単位です。60 単位を超えた場合は、超過分の単位は卒業要件に算入されません。

進級要件

次学年に進級するためには、当該学年に1年以上在学した上で、以下の進級要件を満たしている必要があります。この要件を満たさない場合は、留年となります。

1 学年→2 学年	2 学年→3 学年	3 学年→4 学年
「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から、合計 19 単位以上修得していること。	「基礎研究」および「選択必修科目Ⅰ」各 2 単位を含んで、「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から合計 44 単位以上修得していること。	「基礎研究」、「選択必修科目Ⅰ」、「選択必修科目Ⅱ」各 2 単位を含んで、「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から合計 92 単位以上修得していること。

#印はキャップ制除外科目

区分	授 業 科 目	配当学年	単位数	修得すべき単位数			
必修科目	基礎研究	1	2	14 単位			
	演習 1	3	2				
	演習 2	3	2				
	演習 3	4	2				
	演習 4	4	2				
	卒業論文	4	4				
選択必修科目	※ 日本史概説	1	2	この中から 2 単位以上	必修科目・ 選択必修科目・学科選 択科目の中 から 80 単 位以上	全専門科目 の中 から 90 単 位 以 上	
	※ 世界史概説	1	2				
	※ 現代学入門	1	2				
	※ 文化資源学概説	1	2				
	日本史系	日本古代史講読 I	2	2			この中から 4 単位以上
		日本古代史講読 II	2	2			
		日本中世史講読 I	2	2			
		日本中世史講読 II	2	2			
		日本近世史講読 I	2	2			
		日本近世史講読 II	2	2			
		日本近現代史講読 I	2	2			
		日本近現代史講読 II	2	2			
	世界史系	ヨーロッパ史講読 I	2	2			
		ヨーロッパ史講読 II	2	2			
		ヨーロッパ史講読 III	2	2			
		ヨーロッパ史講読 IV	2	2			
		アジア史講読 I	2	2			
		アジア史講読 II	2	2			
		古代エジプト史講読 I	2	2			
		古代エジプト史講読 II	2	2			
現代文化・倫理系	現代文化講読 I	2	2				
	現代文化講読 II	2	2				
	女性学・男性学講読 I	2	2				
	女性学・男性学講読 II	2	2				
	現代社会講読 I	2	2				
	現代社会講読 II	2	2				
	現代倫理講読 I	2	2				
	現代倫理講読 II	2	2				
文化資源学系	考古学講読 I	2	2				
	考古学講読 II	2	2				
	文化資源学講読 I	2	2				
	文化資源学講読 II	2	2				
	日本美術史講読 I	2	2				
	日本美術史講読 II	2	2				
	地域調査実習入門 1	2	2				
	地域調査実習入門 2	2	2				

区分	授 業 科 目	配当学年	単位数	修得すべき単位数			
選 択 必 修 科 目 Ⅲ	※ 日本民俗学	1	2	選 択 必 修 科 目 Ⅲ・Ⅳから 32 単位以上	必修科目・ 選択必修科 目・学科選 択科目の中 から 80 単 位以上	全専門科目 の中 から 90 単 位 以 上	
	※ 環境民俗論	1	2				
	※ 日本考古学Ⅰ	1	2				
	※ 日本考古学Ⅱ	1	2				
	※ 人文地理学Ⅰ	1	2				
	※ 人文地理学Ⅱ	1	2				
	※ 日本地誌学	1	2				
	※ 世界地誌学	1	2				
	※ 近畿現代文化探索	1	2				
	※ 近畿歴史文化探索	1	2				
	※ デジタル・ヒューマニティーズⅠ	1	2				
	※ デジタル・ヒューマニティーズⅡ	1	2				
	※ 女性学・男性学	1	2				
	※ 女性学・男性学特講	1	2				
	※ 宗教学Ⅰ	1	2				
※ 宗教学Ⅱ	1	2					
選 択 必 修 科 目	日本史系	※ 日本古代史Ⅰ	2	2	選 択 必 修 科 目 Ⅲ・Ⅳから 32 単位以上	必修科目・ 選択必修科 目・学科選 択科目の中 から 80 単 位以上	全専門科目 の中 から 90 単 位 以 上
		※ 日本古代史Ⅱ	2	2			
		※ 日本中世史Ⅰ	2	2			
		※ 日本中世史Ⅱ	2	2			
		※ 日本近世史	2	2			
		※ 日本近世史特講	2	2			
		※ 日本近現代史	2	2			
		※ 日本近現代史特講	2	2			
		※ 日本思想史Ⅰ	2	2			
		※ 日本思想史Ⅱ	2	2			
選 択 必 修 科 目 Ⅳ	世界史系	※ ヨーロッパ史Ⅰ	2	2	選 択 必 修 科 目 Ⅲ・Ⅳから 32 単位以上	必修科目・ 選択必修科 目・学科選 択科目の中 から 80 単 位以上	全専門科目 の中 から 90 単 位 以 上
		※ ヨーロッパ史Ⅱ	2	2			
		※ ヨーロッパ史特講Ⅰ	2	2			
		※ ヨーロッパ史特講Ⅱ	2	2			
		※ ヨーロッパ史特講Ⅲ	2	2			
		※ アメリカ史特講	2	2			
		※ アジア史Ⅰ	2	2			
		※ アジア史Ⅱ	2	2			
		※ アジア史特講Ⅰ	2	2			
		※ アジア史特講Ⅱ	2	2			
		※ イスラーム史	2	2			
		※ イスラーム史特講	2	2			
		※ 古代エジプト史Ⅰ	2	2			
		※ 古代エジプト史Ⅱ	2	2			
現代文化・倫理系	※ 現代倫理学Ⅰ	2	2	選 択 必 修 科 目 Ⅲ・Ⅳから 32 単位以上	必修科目・ 選択必修科 目・学科選 択科目の中 から 80 単 位以上	全専門科目 の中 から 90 単 位 以 上	
	※ 現代倫理学Ⅱ	2	2				
	※ 文化社会学Ⅰ	2	2				
	※ 文化社会学Ⅱ	2	2				
	※ 現代人間学Ⅰ	2	2				
	※ 現代人間学Ⅱ	2	2				
	※ 社会調査入門	2	2				
	※ 情報と文化Ⅰ	2	2				
	※ 情報と文化Ⅱ	2	2				
	※ 現代文化論	2	2				

区分		授 業 科 目	配当学年	単位数	修得すべき単位数			
選 択 必 修 科 目	選 択 必 修 科 目 Ⅳ	文 化 資 源 学 系	※ 歴史考古学Ⅰ	2	2	選 択 必 修 科 目 Ⅲ・Ⅳから 32 単位以上	必 修 科 目・ 選 択 必 修 科 目・ 学 科 選 択 科 目 の 中 か ら 80 単 位 以 上	全 専 門 科 目 の 中 か ら 90 単 位 以 上
			※ 歴史考古学Ⅱ	2	2			
			※ 文化人類学Ⅰ	2	2			
			※ 文化人類学Ⅱ	2	2			
			※ 日本美術史特講Ⅰ	2	2			
			※ 日本美術史特講Ⅱ	2	2			
			考古学実習Ⅰ	2	2			
			考古学実習Ⅱ	2	2			
			民俗学実習Ⅰ	3	2			
			民俗学実習Ⅱ	3	2			
			文化活用・発信実習Ⅰ	2	2			
			文化活用・発信実習ⅡA	2	2			
			文化活用・発信実習ⅡB	2	2			
			文化資源学自由研究	2	2 [#]			
学 科 選 択 科 目		※ 自然地理学Ⅰ	1	2				
		※ 自然地理学Ⅱ	1	2				
		※ 政治学原論Ⅰ	2	2				
		※ 政治学原論Ⅱ	2	2				
		※ 文化学特講Ⅰ	2	2				
		※ 文化学特講Ⅱ	2	2				
		※ 文化学特講Ⅲ	2	2				
		※ 言語文化セミナー初級	2	2				
		※ 言語文化セミナーⅠ	3	2				
※ 言語文化セミナーⅡ	3	2						
自 由 選 択 科 目		留学プログラムⅠ	1	2 [#]	10 単位を上限として卒業所要単位に 加算する。			
		留学プログラムⅡ	2	2 [#]				
		インターンシップ	3	2 [#]				
		他学科・専攻の※印科目						

履修上の注意

文化・歴史学科の選択必修科目は日本史、世界史、現代文化・倫理、文化資源学の4つの系に分かれる。系の区分は進級および卒業要件にはかかわらないが、カリキュラムポリシーにあるそれぞれの系の特徴をよく読んで、自分に最もあった系の科目の履修の仕方を考えること。

下記に専門科目を中心とした、各学年の履修モデルを示しておくので、参考にすること。

- 〈1学年〉 「近大ゼミ」・「基礎研究」を1科目ずつと、「選択必修科目Ⅰ」およびできるだけ多くの「選択必修科目Ⅲ」を履修して、2学年以降の自分の研究の方針をおおよそ定める。
- 〈2学年〉 「選択必修科目Ⅱ」や「選択必修科目Ⅳ」を履修して、自分の研究テーマをほぼ決定し、卒業論文の指導を受けるゼミ（「演習」）を決める。ゼミ配属の決定は12月～1月の予定（ゼミは原則的には3・4学年を通じ同一担当者による指導を受ける）。
- 〈3学年〉 所属するゼミで、専門研究を進める。あわせて引き続き広く様々な科目を履修する。4学年に卒業論文に集中できるよう、卒業所要単位をできるだけこの学年までに修得しておく。
- 〈4学年〉 卒業論文（2万文字以上）を作成する。提出は12月中旬の予定。卒業に必要な科目・単位数を、必ず余裕を持たせて履修すること。

履修系統図について

カリキュラムツリー等の履修系統図は、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示するものです。

カリキュラムツリーを参照することで、各科目の位置づけや科目同士の関連性を理解し、体系的な履修計画を立てることができます。履修登録時には必ず参照し、各科目の教育課程における位置づけを理解したうえで履修計画を立ててください。

詳しくは下記の web サイトもしくは QR コードをご覧ください。

文化・歴史学科カリキュラム

<https://www.kindai.ac.jp/lit-art-cul/department/culture-history/curriculum/>



文化デザイン学科 卒業・進級・履修要件と授業科目表

卒業要件

卒業するためには、4年間以上在学（ただし、各学年1年以上在学すること）し、以下の授業科目表の単位数以上を修得していること。

授 業 科 目			修得すべき単位数		
共通教養科目・外国語科目	共通教養科目	人間性・社会性科目群 (自校学習除く)	2 単位以上	20 単位以上 (近大ゼミ、コンピュータ実習1を含む)	34 単位以上
		地域性・国際性科目群	2 単位以上		
		課題設定・問題解決科目群	4 単位以上		
		スポーツ・表現活動科目群	2 単位以上		
	第一外国語（英語）（必修8 単位含む）	10 単位以上	14 単位以上		
	第二外国語				
専門科目	必修科目	講義科目	6 単位	36 単位	80 単位以上 90 単位以上
		ゼミナール	26 単位		
		卒業論文・卒業制作・卒業プロジェクト	4 単位		
	選択必修科目	感じとる力科目群	10 単位以上	34 単位以上	
		かたちにする力科目群	10 単位以上		
		つなぐ力科目群	10 単位以上		
	選択科目		4 単位以上		
自由選択科目		10 単位を上限として卒業所要単位数に算入する。			

文芸学部卒業所要単位数	124 単位以上
-------------	----------

卒業要件の 20 単位を超えて修得した共通教養科目の単位、卒業要件の 14 単位を超えて修得した外国語科目の単位は、卒業所要単位数 124 単位には算入されません。共通教養科目 20 単位、外国語科目 14 単位、専門科目 90 単位は、それぞれの科目群内で修得するようにして下さい。
 授業形態が「メディア授業」とされている授業で修得した単位数の内、卒業要件として算定される単位数の上限は 60 単位です。60 単位を超えた場合は、超過分の単位は卒業要件に算入されません。

進級要件

次学年に進級するためには、当該学年に1年以上在学した上で、以下の進級要件を満たしている必要があります。この要件を満たさない場合は、留年となります。

1 学年→2 学年	2 学年→3 学年	3 学年→4 学年
「ゼミナールⅠ」を含んで、「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から合計 22 単位以上修得していること。	「ゼミナールⅡA・ⅡB」を含んで、「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から合計 58 単位以上を修得していること。	「ゼミナールⅢA・ⅢB」を含んで、「共通教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の中から合計 92 単位以上を修得していること。

#印はキャップ制除外科目

区分	授 業 科 目	配当学年	単位数	修得すべき単位数			
必修科目	感性学概論	1	2	36 単位			
	総合デザイン概論	1	2				
	社会デザイン概論	1	2				
	ゼミナールⅠ	1	2				
	ゼミナールⅡA	2	4				
	ゼミナールⅡB	2	4				
	ゼミナールⅢA	3	4				
	ゼミナールⅢB	3	4				
	ゼミナールⅣA	4	4				
	ゼミナールⅣB	4	4				
卒業論文・卒業制作・卒業プロジェクト	4	4					
選択科目	感じとる力科目群	デザイン基礎演習 A	1	2	この中から 10 単位以上	必修科目・ 選択必修 科目・選 択科目の 中から 80 単位以上	全専門科 目の中か ら 90 単 位以上
		※ 西洋芸術文化史 A	1	2			
		※ 西洋芸術文化史 B	1	2			
		※ 日本芸術文化史 A	1	2			
		※ 日本芸術文化史 B	1	2			
		※ 表象文化論	1	2			
		イメージ論	2	2			
		感性文化論	2	2			
		感性学特殊講義	2	2			
		※ 近畿風土論	2	2			
		感性デザイン特論Ⅰ	3	2			
		感性デザイン特論Ⅱ	3	2			
		感性デザイン特論Ⅲ	3	2			
必修科目	かたちにする力科目群	デザイン基礎演習 B	1	2	この中から 10 単位以上		
		※ デザイン史 A	1	2			
		※ デザイン史 B	1	2			
		※ 空間デザイン論	2	2			
		視覚デザイン論	2	2			
		プロダクトデザイン論	2	2			
		コミュニティデザイン論	2	2			
		総合デザイン特論Ⅰ	3	2			
		総合デザイン特論Ⅱ	3	2			
		総合デザイン特論Ⅲ	3	2			
必修科目	つなぐ力科目群	デザイン基礎演習 C	1	2	この中から 10 単位以上		
		コミュニケーションデザイン論	1	2			
		※ プロデューサー論	1	2			
		プロデュース史	1	2			
		※ 文化政策論	2	2			
		※ 劇場文化論	2	2			
		※ 地方創生論	2	2			
		※ ソーシャルメディア論	2	2			
		社会デザイン特論Ⅰ	3	2			
		社会デザイン特論Ⅱ	3	2			
社会デザイン特論Ⅲ	3	2					

区分	授 業 科 目	配当学年	単位数	修得すべき単位数		
選 択 科 目	芸術文化講読A	1	2	この中から4単位以上	必修科目・ 選択必修 科目・選 択科目の 中から80 単位以上	全専門科 目の中か ら90単位 以上
	芸術文化講読B	1	2			
	※ 知的財産論	2	2			
	※ 広告コミュニケーション論	3	2			
	スタジオ1A	1	2			
	スタジオ1B	1	2			
	スタジオ1C	1	2			
	スタジオ1D	1	2			
	スタジオ1E	1	2			
	スタジオ1F	1	2			
	スタジオ2A	2	2			
	スタジオ2B	2	2			
	スタジオ2C	2	2			
	スタジオ2D	2	2			
	スタジオ2E	2	2			
	スタジオ2F	2	2			
	スタジオ3A	3	2			
	スタジオ3B	3	2			
	スタジオ3C	3	2			
	スタジオ3D	3	2			
	スタジオ3E	3	2			
	スタジオ3F	3	2			
	スタジオ4A	4	2			
	スタジオ4B	4	2			
スタジオ4C	4	2				
スタジオ4D	4	2				
スタジオ4E	4	2				
スタジオ4F	4	2				
自由 選 択 科 目	留学プログラムⅠ	1	2 [#]	10単位を上限として卒業所要単位 に加算する。		
	留学プログラムⅡ	2	2 [#]			
	インターンシップ	3	2 [#]			
	他学科・他専攻の※印科目					

履修上の注意

1. 「ゼミナール」の履修方法について

「ゼミナール」は1年次から4年次まで必修科目として設定されている。「ゼミナール」の単位が取得できない場合は直ちに留年となるので注意すること。(履修要項の「進級要件」参照)

2. 「ゼミナール」以外の必修科目について

「感性学概論」、「総合デザイン概論」、「社会デザイン概論」の3科目は必修科目として設定されている。したがって、必ずしも1年次で修得する必要はないが、卒業までには必ず修得しなければならない。

3. 各科目群の「選択必修科目」と「選択科目」について

3つの科目群に分けられた「選択必修科目」は、それぞれの科目群について10単位以上を修得しなければならない。

「選択科目」からは4単位以上を修得しなければならない。

4. 「自由選択科目」について

「自由選択科目」は、「選択必修科目」と「選択科目」と「自由選択科目」の修得単位数の合計が54単位以上となるように修得しなければならない。すなわち、「選択必修科目」と「選択科目」の単位数が54単位以上の場合は0単位でもよい。

5. 進級要件・卒業要件について

各学年ともに、進級に必要な単位数と修得すべき必修科目（「ゼミナール」）が設定されている。したがって、必ず「進級要件」表と成績通知表の自分の修得単位数を確認しながら、毎年の履修登録を確実に行うこと。(履修要項の「進級要件」参照)

6. 履修登録と「キャップ制」について

履修登録できる単位数には上限が設けられている＝「キャップ制」。前期・後期それぞれ24単位が上限なので、4年間の履修計画を立て、十分に考慮したうえで履修登録をすること。(履修要項のp17「9. キャップ制」参照)

履修系統図について

カリキュラムツリー等の履修系統図は、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示するものです。

カリキュラムツリーを参照することで、各科目の位置づけや科目同士の関連性を理解し、体系的な履修計画を立てることができます。履修登録時には必ず参照し、各科目の教育課程における位置づけを理解したうえで履修計画を立ててください。

詳しくは下記のwebサイトもしくはQRコードをご覧ください。

文化デザイン学科カリキュラム

<https://www.kindai.ac.jp/lit-art-cul/department/culture-design/curriculum/>

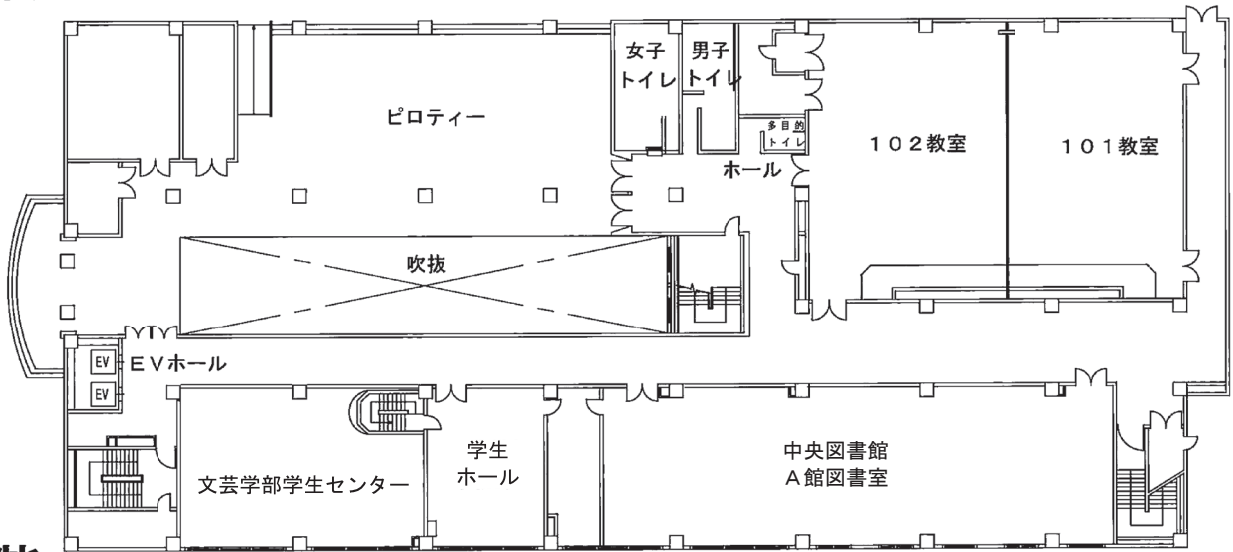


Ⅲ 校舎・講義室等の配置図

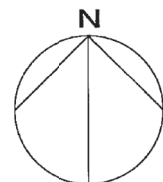
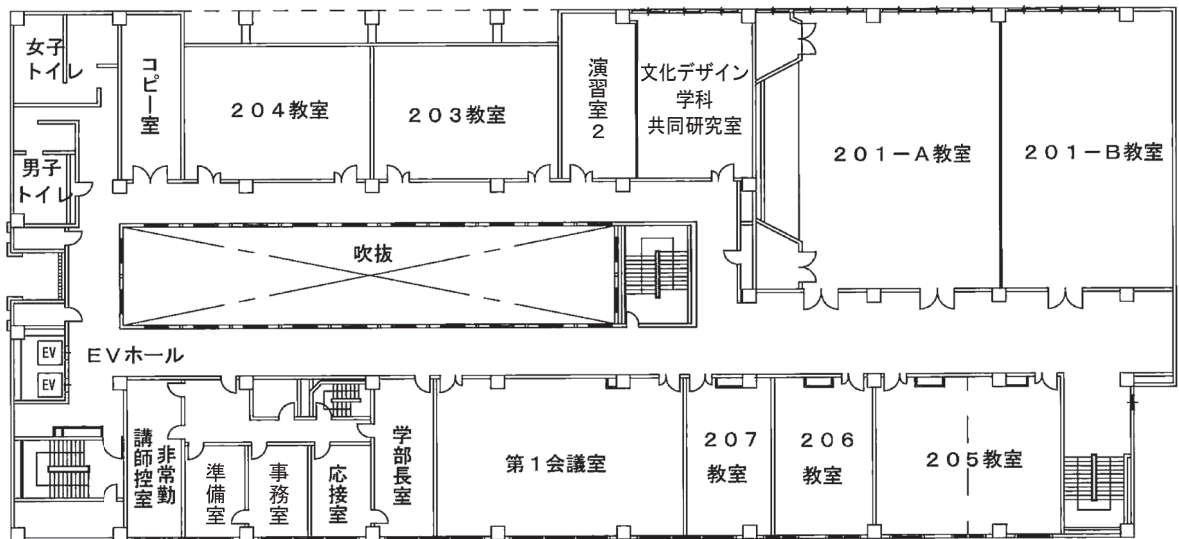
教室等配置図

A 館

1階

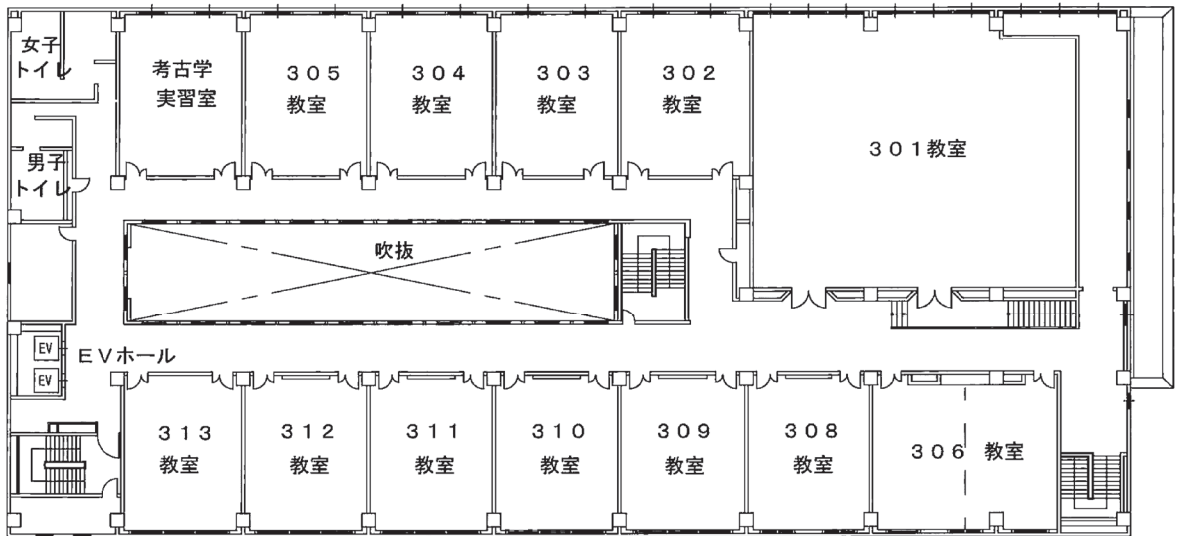


2階

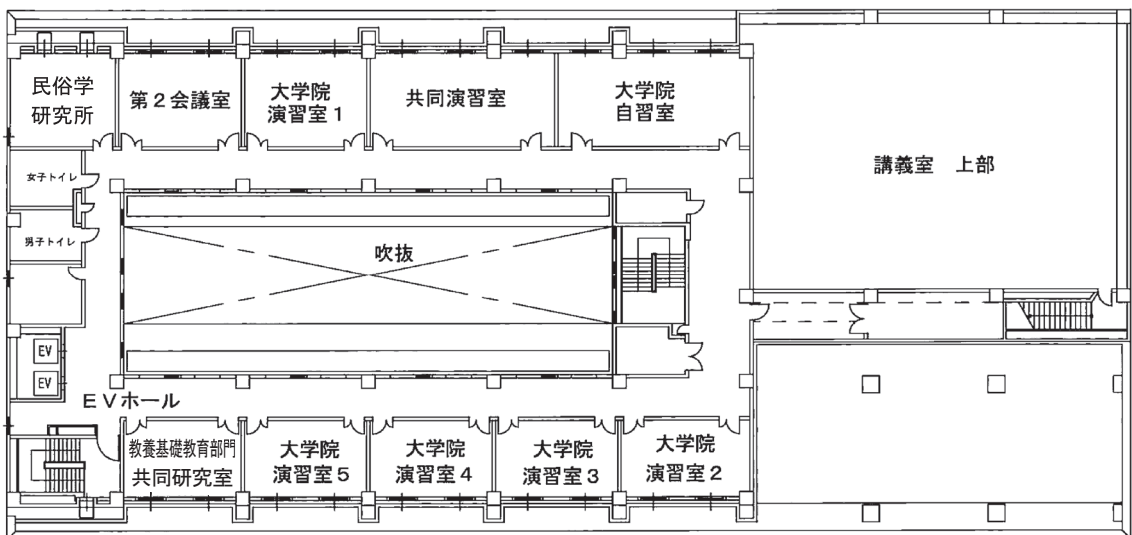


A 館

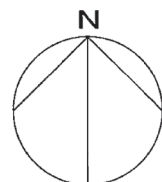
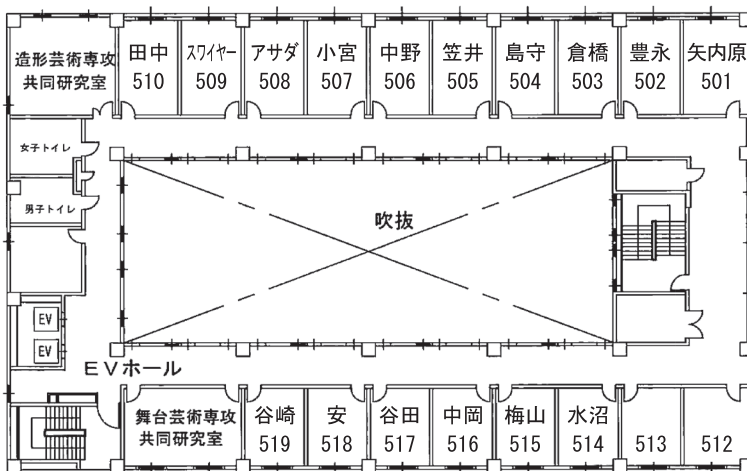
3階



4階

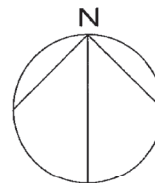
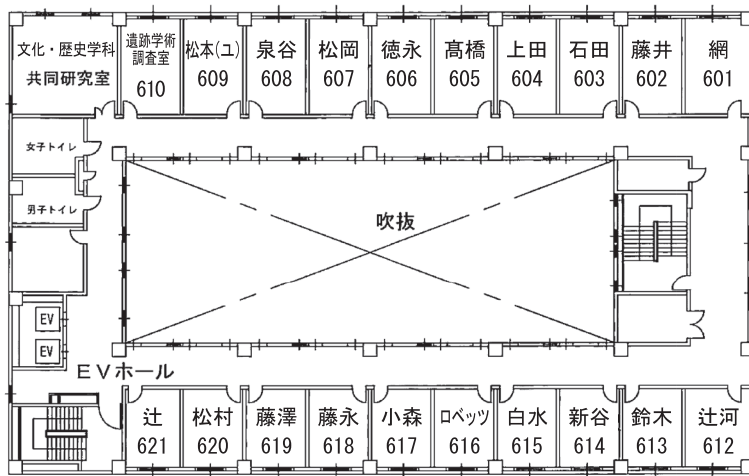


5階

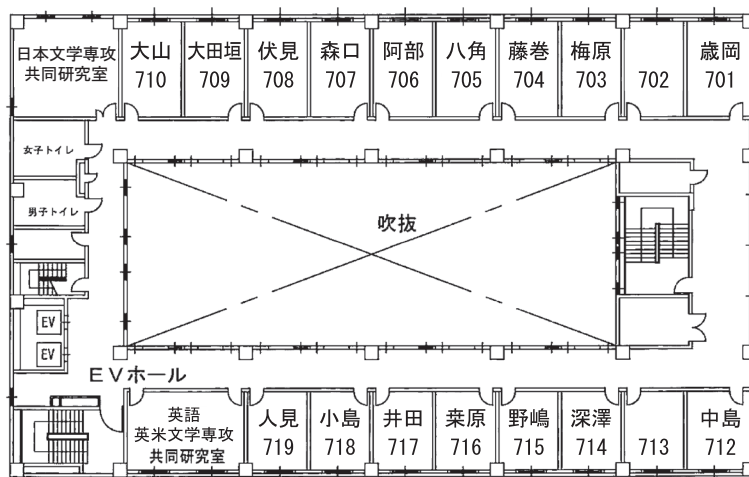


A 館

6階

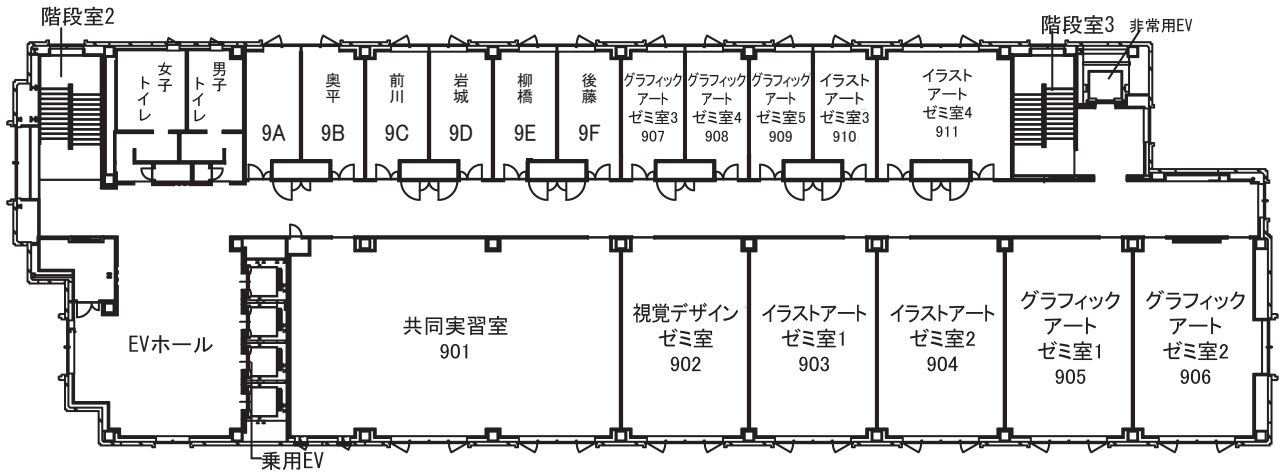


7階

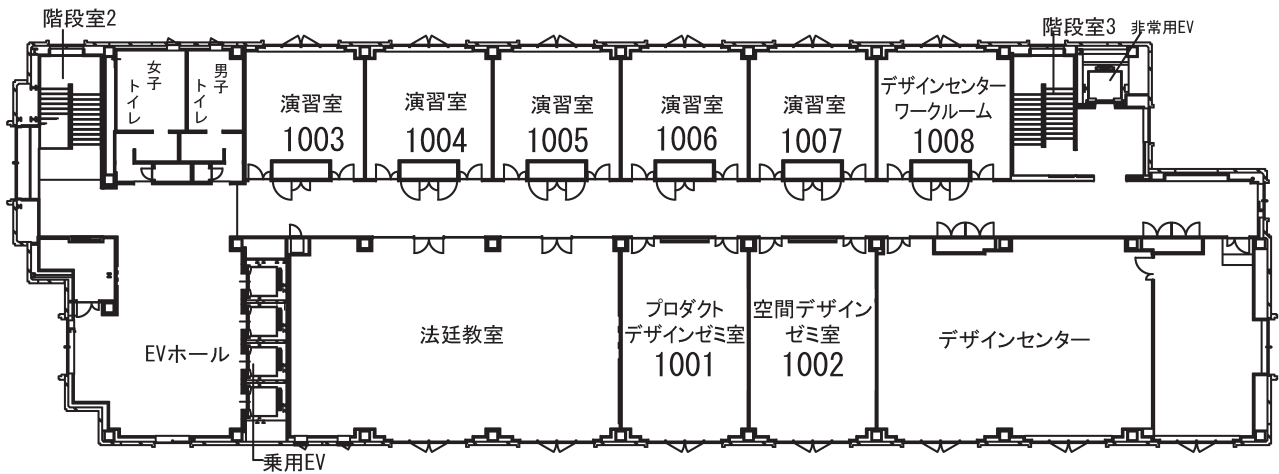


B 館

9階



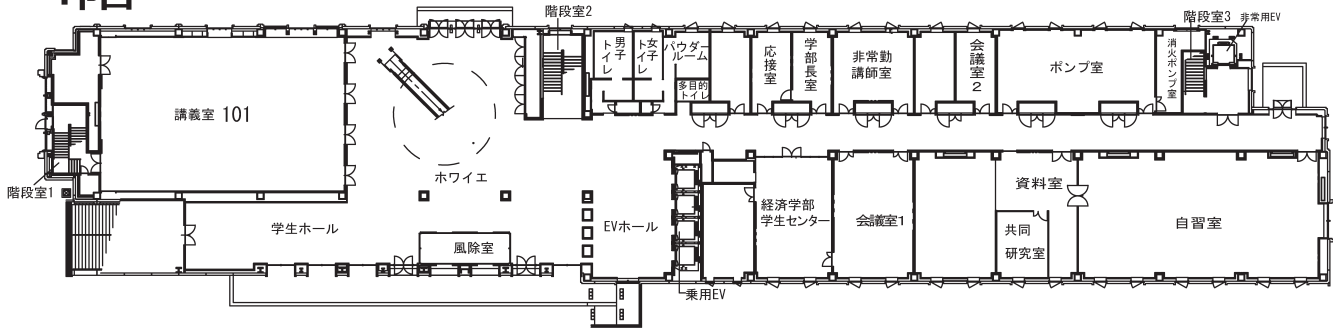
10階



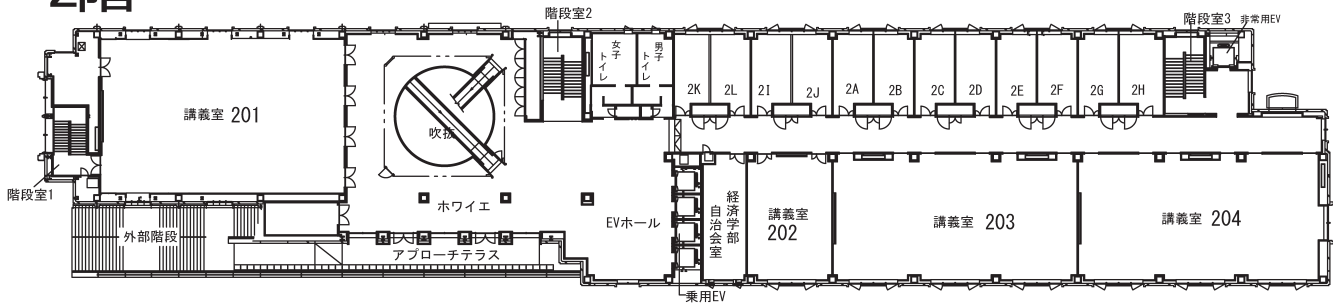
※ B館 1階～7階は P.82、P.83 に記載

B 館

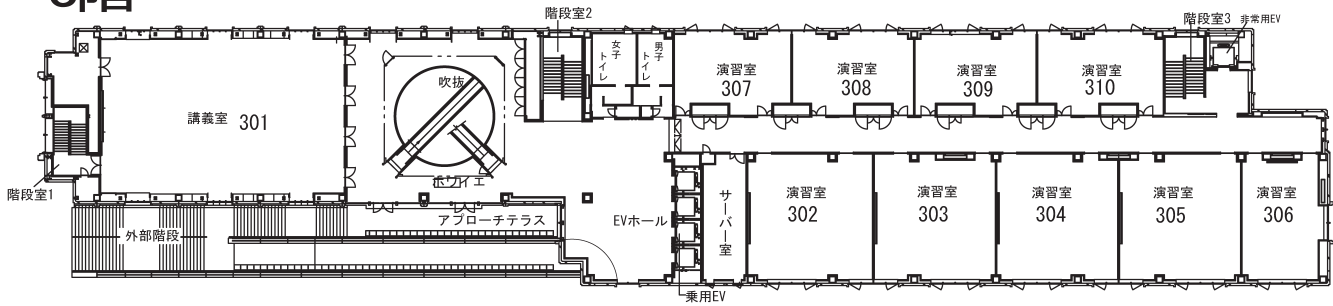
1階



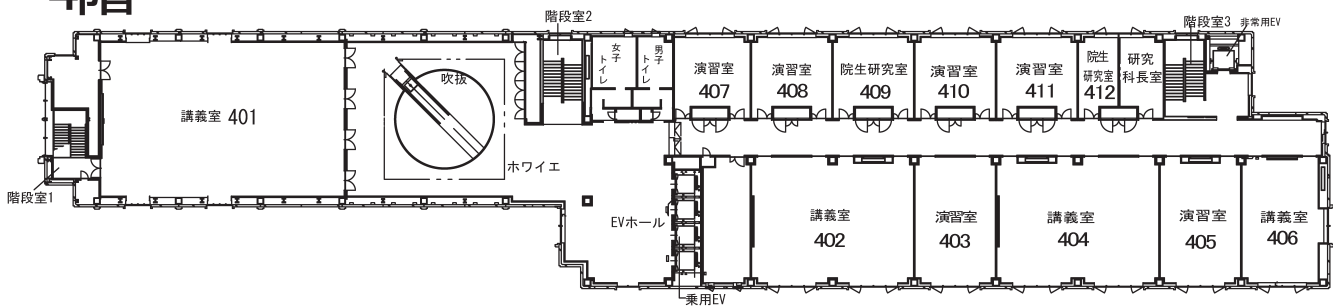
2階



3階

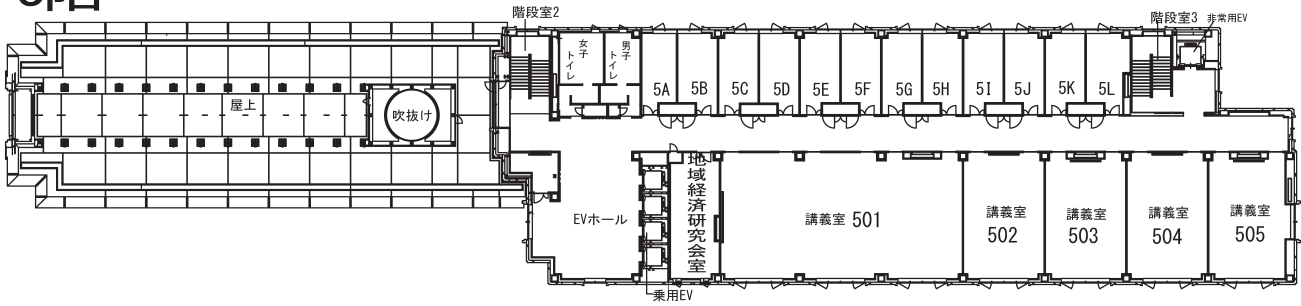


4階

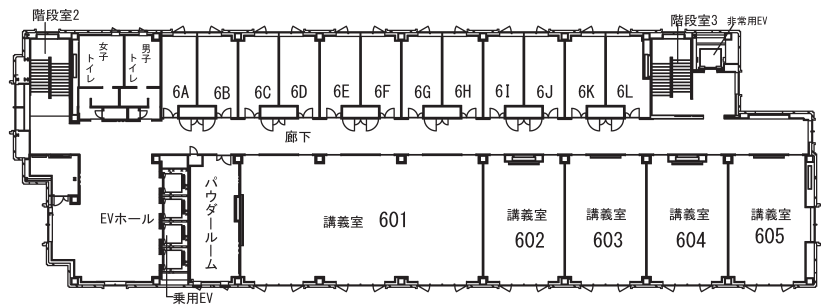


B 館

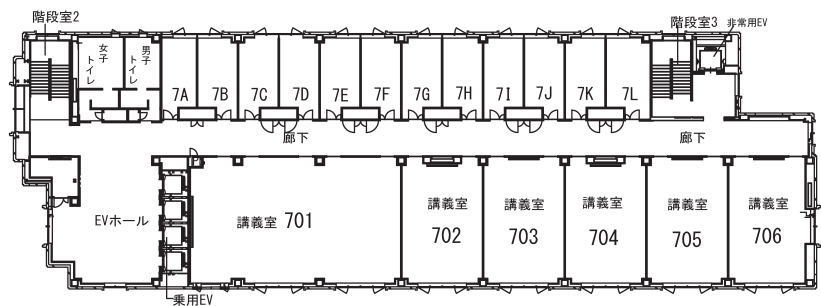
5階



6階

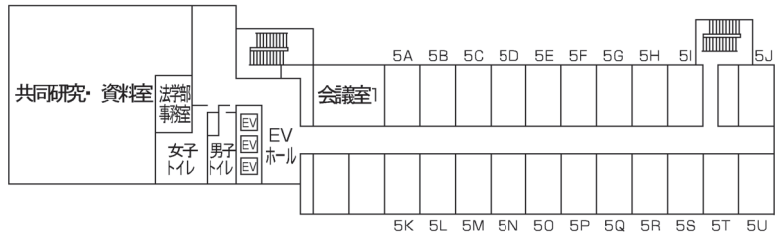


7階

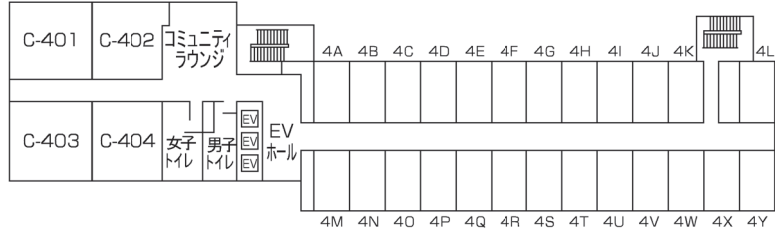


C館

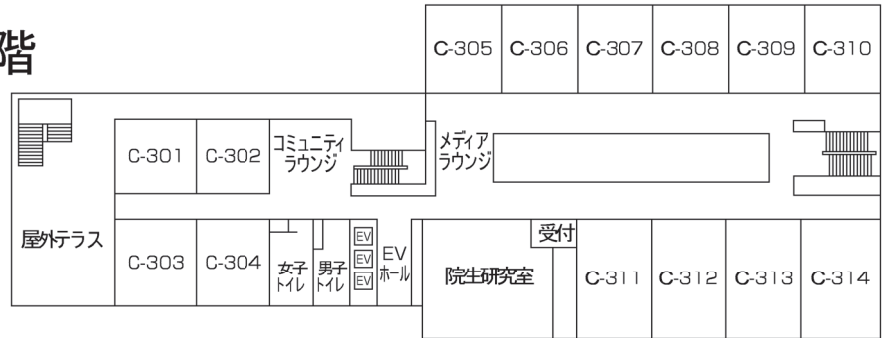
5階



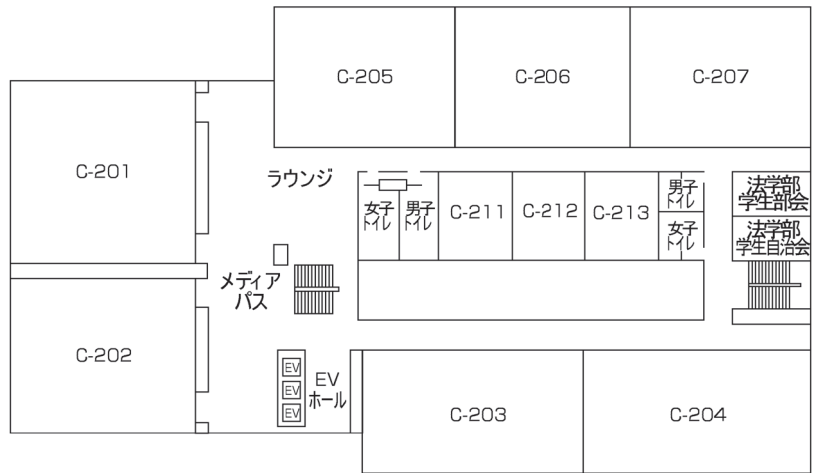
4階



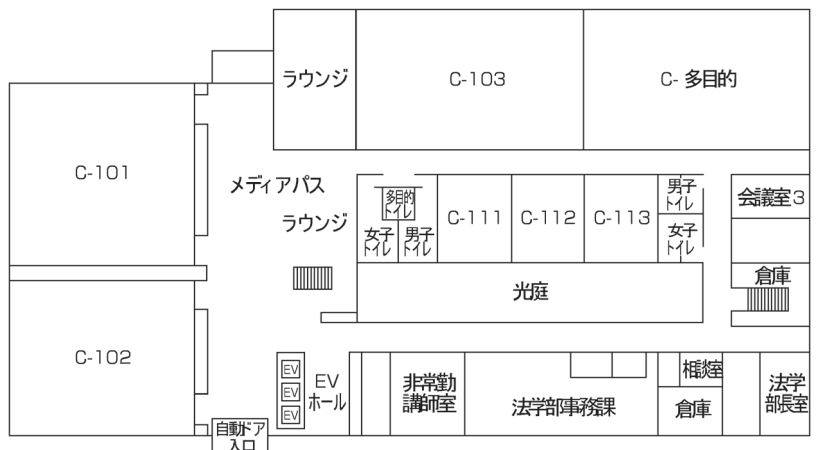
3階



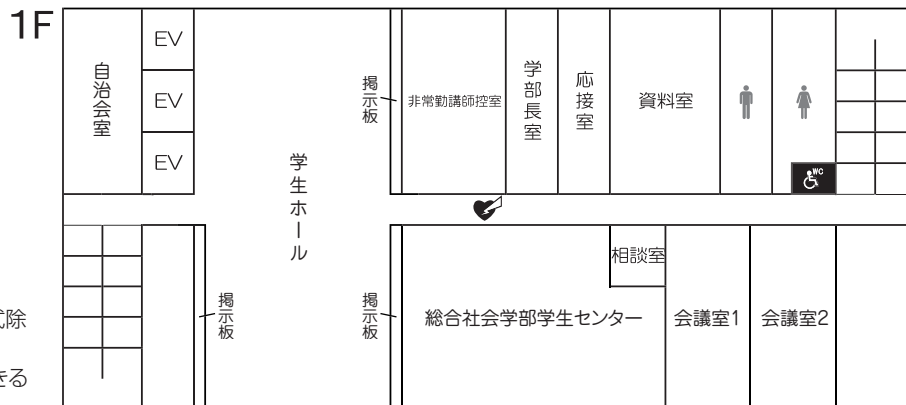
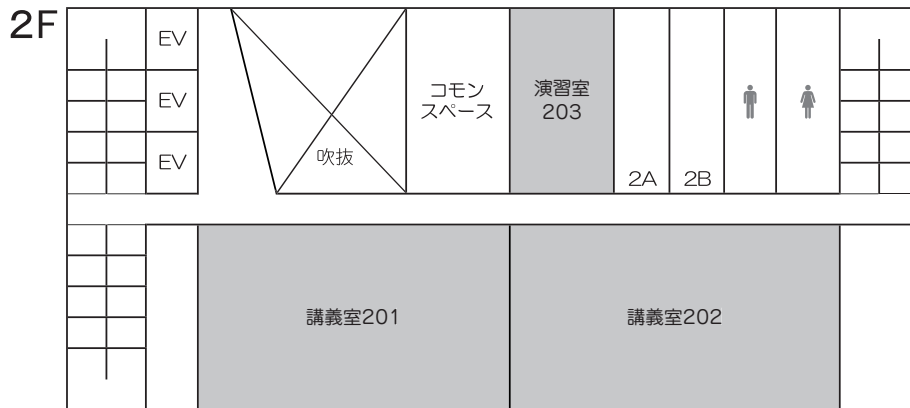
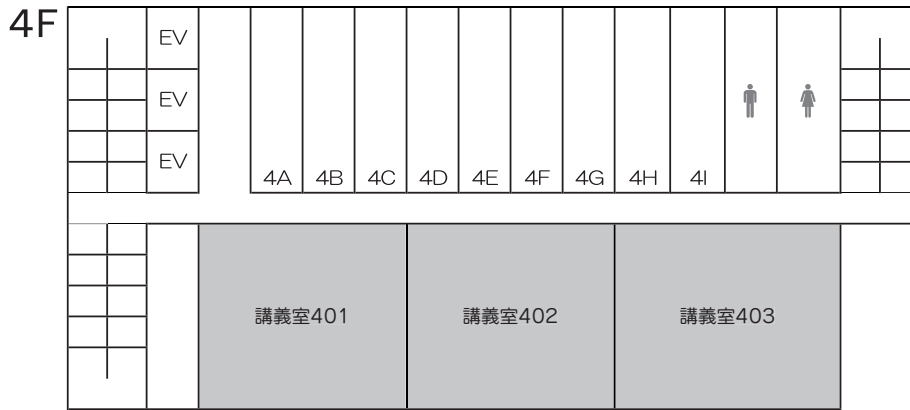
2階



1階



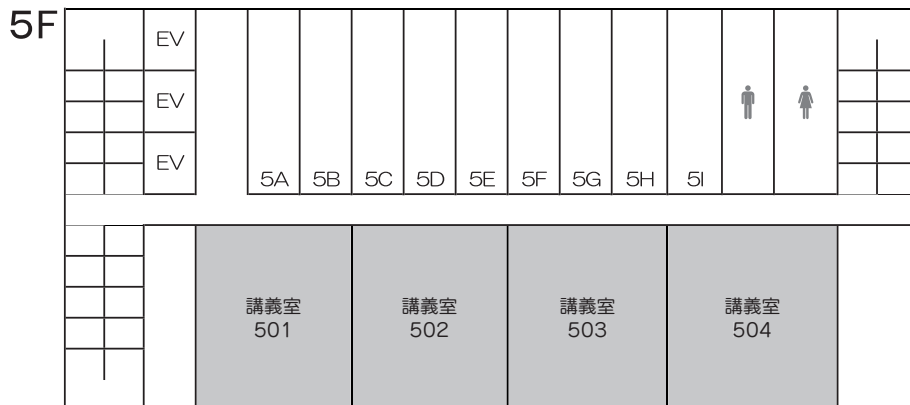
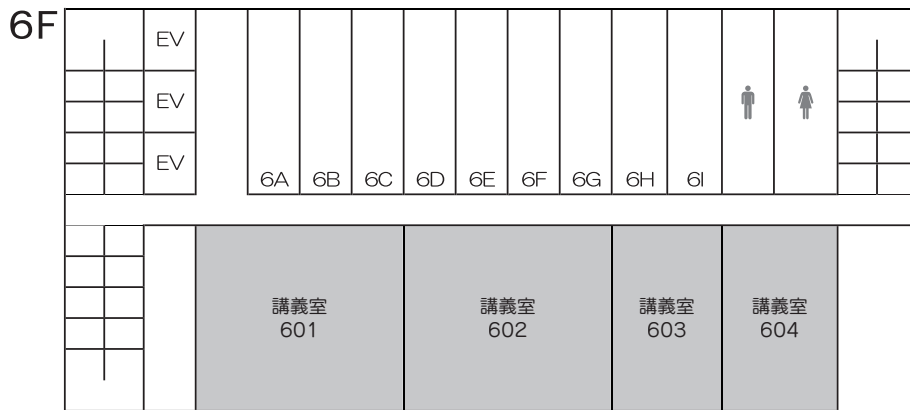
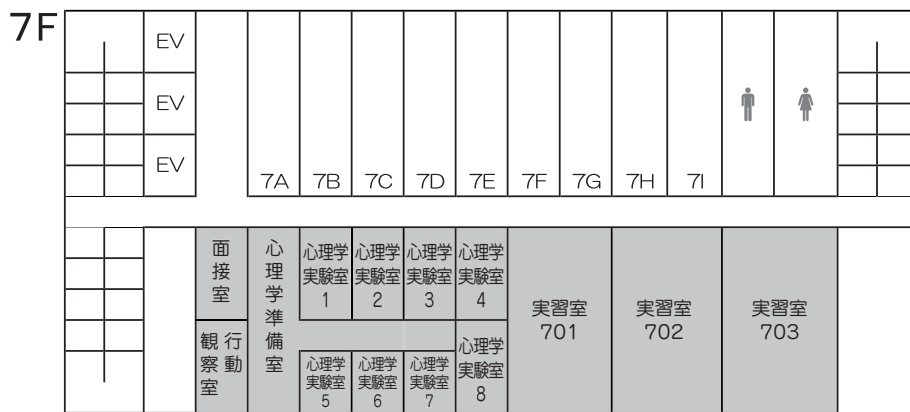
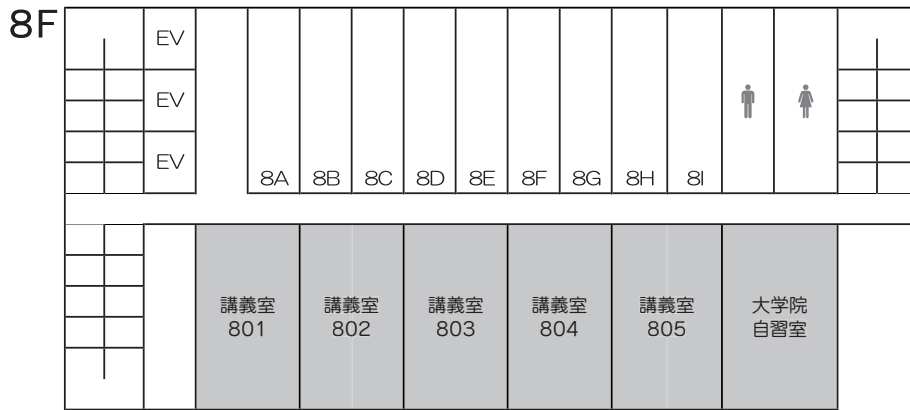
G 館





♥ = AED(自動体外式除細動器)設置場所

♿ = 車椅子で利用できるトイレの設置場所

G 館

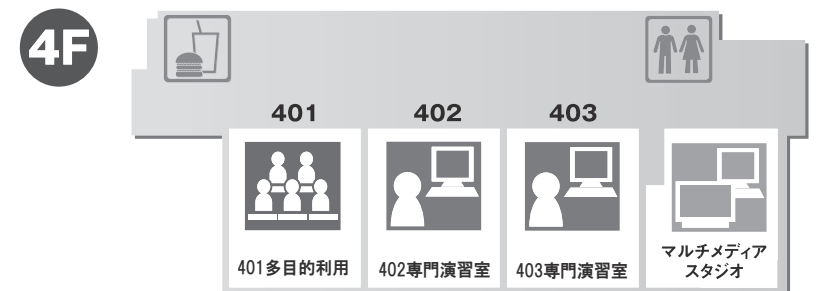
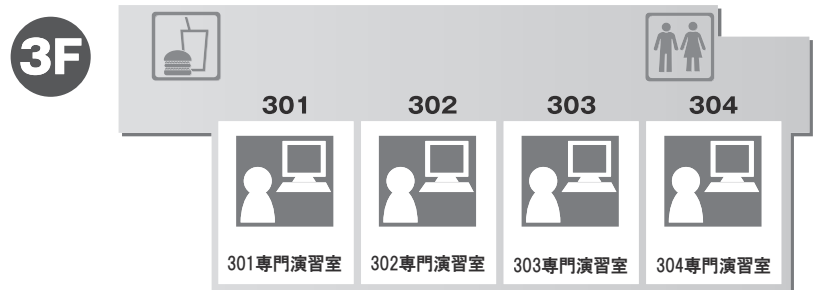
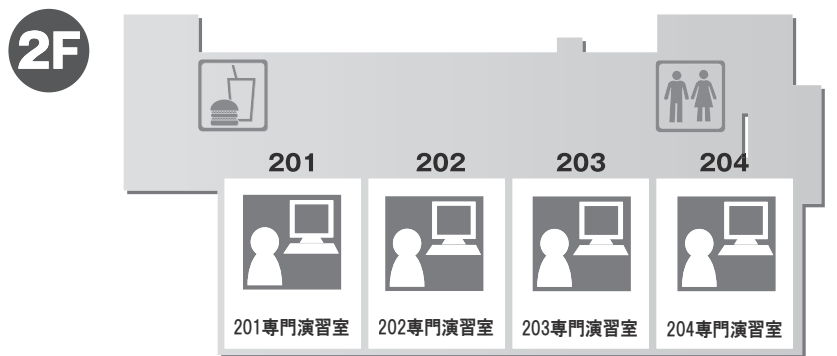
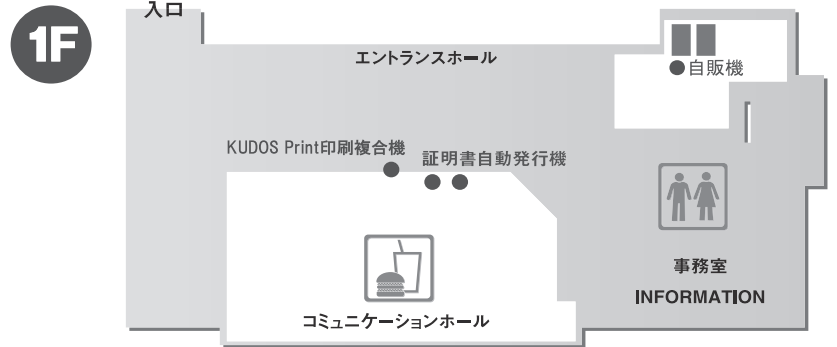


KUDOS

-  トイレ
-  飲食可

 専門演習室

 多目的利用教室



文芸学部履修要項 (2026)

2026.4 印刷発行

発行者 近畿大学文芸学部
編集 近畿大学文芸学部 教務委員会
所在地 〒577-8502 東大阪市小若江 3-4-1
電話番号 文芸学部学生センター (06)4307-3061

 近畿大学